

子供の自己肯定感や道徳心は保護者の関わり次第で大きく変わる！

「青少年の体験活動等に関する実態調査（平成 26 年度調査）」[結果の概要]

【本調査の概要】

国立青少年教育振興機構では、我が国の青少年の体験活動等の現状を把握するため、平成 18 年度より自然体験や生活体験等の実施状況や日々の生活習慣の実態、自立に関する意識等について全国規模の調査を実施しています。

平成 26 年度調査では、青少年の体験活動や生活習慣等の現状や経年変化に加え、家庭でのしつけや子供にかかる教育費（学校外）、携帯電話・スマートフォンの利用状況等に注目し、青少年の体験活動や意識等との関係について分析を行いました。

【調査結果のポイント】

ポイント① 自然体験や生活体験、お手伝いといった体験が豊富な子供や、生活習慣が身についている子供ほど、自己肯定感や道徳観・正義感が高くなる傾向がある。

ポイント② 保護者がしつけに力を入れている家庭ほど、子供の自己肯定感や道徳観・正義感等が高くなる傾向がある。

ポイント③ お手伝いをよくしている子供や、生活習慣が身についている子供は、携帯電話やスマートフォンが気になったり、操作することが少なくなる傾向がある。

ポイント④ 子供にかかる教育費が高い家庭ほど、子供が自然体験を多くしている傾向がみられるが、生活体験やお手伝いと教育費にはほとんど関係がみられない。

これらのことから、子供の自己肯定感や道徳心など豊かな心をはぐくむためには、子供への関わりやしつけを通じて、生活体験やお手伝いといった日々の体験を充実させたり、規則正しい生活習慣を身につけさせることが大切だと考えられます。

【主な調査結果】

<青少年の体験活動や生活習慣と意識との関係>

結果① ・自然体験や生活体験、お手伝いなどの体験が豊富な子供や、生活習慣が身についている子供ほど、「今の自分が好きだ」「体力には自信がある」といった自己肯定感（p19）や、「家であいさつをすること」「友達が悪いことをしていたら、やめさせること」といった道徳観・正義感（p25）が高くなる傾向がみられる。

<子供へのしつけと青少年の意識等との関係>

結果② ・「夜ふかしをしないで早く寝ること」「毎朝、きちんと朝食を食べること」など、保護者がしつけに力を入れている家庭の子供ほど、自己肯定感や道徳観・正義感等が高くなる傾向がみられる。（p39）

<携帯電話・スマートフォンの利用状況等と青少年の体験活動や生活習慣との関係>

結果③ ・買い物やそうじ、料理など家のお手伝いをよくしている子供や、あいさつや身の回りのことを自分でできる生活習慣が身についている子供ほど、スマートフォンが気になったり、操作することが少なくなる傾向がみられる。（p31）

<子供にかかる教育費と青少年の体験活動や意識等との関係>

結果④ ・子供にかかる教育費が高い家庭ほど、子供が自然体験を多くしている傾向がみられるが、生活体験やお手伝いと教育費にはほとんど関係がみられない。（p36-37）
・教育費が高い家庭ほど、子供の自己肯定感や道徳観・正義感等が高くなる傾向がみられる。（p37-38）

裏面に続く

<青少年の体験活動等の現状と推移>

(自然体験)

結果⑤ ・「海や川で泳いだこと」(83.9%)や「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」(82.2%)は8割以上が体験しているのに対し、「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」(44.8%)は5割以下にとどまっている (p2)。

(生活体験)

結果⑥ ・「タオルやぞうきんを絞ったこと」(98.3%)や「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」(91.1%)は9割以上が体験しているのに対し、「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」(30.9%)は3割程度にとどまっている (p4)。

(お手伝い)

結果⑦ ・「買い物のお手伝いをする事」(76.0%)や「食器をそろえたり、片付けたりすること」(74.0%)は7割以上が行っているのに対し、「靴などをそろえたり、磨いたりすること」(49.9%)や「ペットの世話とか植物の水やりをすること」(45.1%)は5割以下にとどまっている (p6)。

・平成10年度と比較するとお手伝いの項目は全体的に増加傾向にあり、「靴などをそろえたり、磨いたりすること」「ゴミ袋を出したり、捨てること」「買い物のお手伝いをする事」では20ポイント以上の向上がみられる (p7-8)。

・保護者が子供にお手伝いをさせている割合はいずれの学年(小1~6)でも5割を超えているが、その割合は学年が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、5年生以上になると子供にお手伝いをさせている割合は6割を超えるようになる (p9)。

(読書活動)

結果⑧ ・1か月に読む本の冊数は学年が上がるにつれて少なくなり、高校生では5割以上が「ほとんど読まない」と回答している (p14)。

・1か月に読む本の冊数を平成18年度から比較したところ、多少の増減はあるものの、平成18年度から平成26年度にかけてゆるやかな増加傾向がみられる (p14)。

<青少年の意識等の現状と推移>

(自己肯定感)

結果⑨ ・自己肯定感は学年が上がるにつれて低くなり、小学生から中学生にかけては著しく低下する傾向がみられる。なかでも、「勉強は得意な方だ」「今の自分が好きだ」はその傾向が顕著にみられる (p16-17)。

(道徳観・正義感)

結果⑩ ・「家であいさつをすること」(88.3%)や「近所の人や知り合いの人にあいさつをすること」(85.5%)は8割以上が行っているのに対し、「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずること」(48.7%)は5割以下にとどまっている (p22)。

<携帯電話・スマートフォンの使用の現状>

結果⑪ ・子供の教育費(学校以外)が高い家庭ほど、子供が携帯電話・スマートフォンを所有している割合が高くなる傾向がみられる (p26)。

・携帯電話・スマートフォンの利用時間は、学年が上がるにつれて「3時間以上」の割合が高くなり、高校生になると2時間以上利用している割合が5割を超えるようになる (p27)。

・携帯電話・スマートフォンの使用状況については「特にすることがない時、とりあえず携帯電話・スマートフォンを操作している」(64.3%)の回答が最も多く6割を超えており、高校生になるとその割合は9割近くになる。(p28)

本件問い合わせ先

国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター センター長 明石 要一
青少年教育研究センター 企画室長 蓬田 伸光
青少年教育研究センター 研究員 藤江 龍
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
TEL : 03-6407-7742 FAX : 03-6407-7689 E-mail : kenkyu-soumu@niye.go.jp

調査の概要

1. 調査の目的

青少年教育関係者が実施する事業の企画立案、運営等に資するため、青少年の体験活動等や自立に関する意識等の実態について全国規模の調査を実施し、基礎資料を提供する。

2. 調査内容

<青少年調査>

- ・自然体験・生活体験・お手伝いの実態
- ・生活習慣等の実態
- ・自立に関する意識・行動
- ・生活環境・メディア接触
- ・携帯電話・スマートフォンの使用 他

<保護者調査>

- ・子供の自然体験の実態
- ・子供の体験活動に対する意識
- ・保護者の子供へのしつけや教育等に関する実態
- ・保護者の自然体験の実態
- ・子供の教育費や世帯収入 他

3. 調査対象

- ・全国の公立小学校1年生・2年生・3年生の保護者
- ・全国の公立小学校4年生・5年生・6年生とその保護者
- ・全国の公立中学校2年生
- ・全国の公立全日制高等学校2年生

4. 調査実施時期

平成27年2月～同年3月

5. 回収数

配布数				回収数						
学校種別	学年	学校数 ^①	在籍児童・生徒数 ^②	学校数		調査票				組数 ^d
						子供用		保護者用		
				回収数 ^③	回収率 ^a	回収数 ^④	回収率 ^b	回収数 ^⑤	回収率 ^c	
小学校	1年	100	2,845	91	91.0%	***	***	2,407	84.6%	***
	2年	100	2,873	94	94.0%	***	***	2,507	87.3%	***
	3年	100	2,989	98	98.0%	***	***	2,750	92.0%	***
	4年	100	3,084	94	94.0%	2,705	87.7%	2,692	87.3%	2,689
	5年	100	3,152	94	94.0%	2,788	88.5%	2,776	88.1%	2,771
	6年	100	3,043	96	96.0%	2,726	89.6%	2,722	89.5%	2,719
中学校	2年	150	5,140	139	92.7%	4,493	87.4%	***	***	***
高等学校	2年	150	5,647	145	96.7%	5,319	94.2%	***	***	***
計		900	28,773	851	94.6%	18,031	89.9%	15,854	88.1%	8,179

回収率 a : (③) ÷ (①) × 100

回収率 b : (④) ÷ (②) × 100

回収率 c : (⑤) ÷ (②) × 100

組数 d : 回収した調査票のうち、同一家庭で子供用と保護者用の調査票ともに回収できた数

調査結果の概要

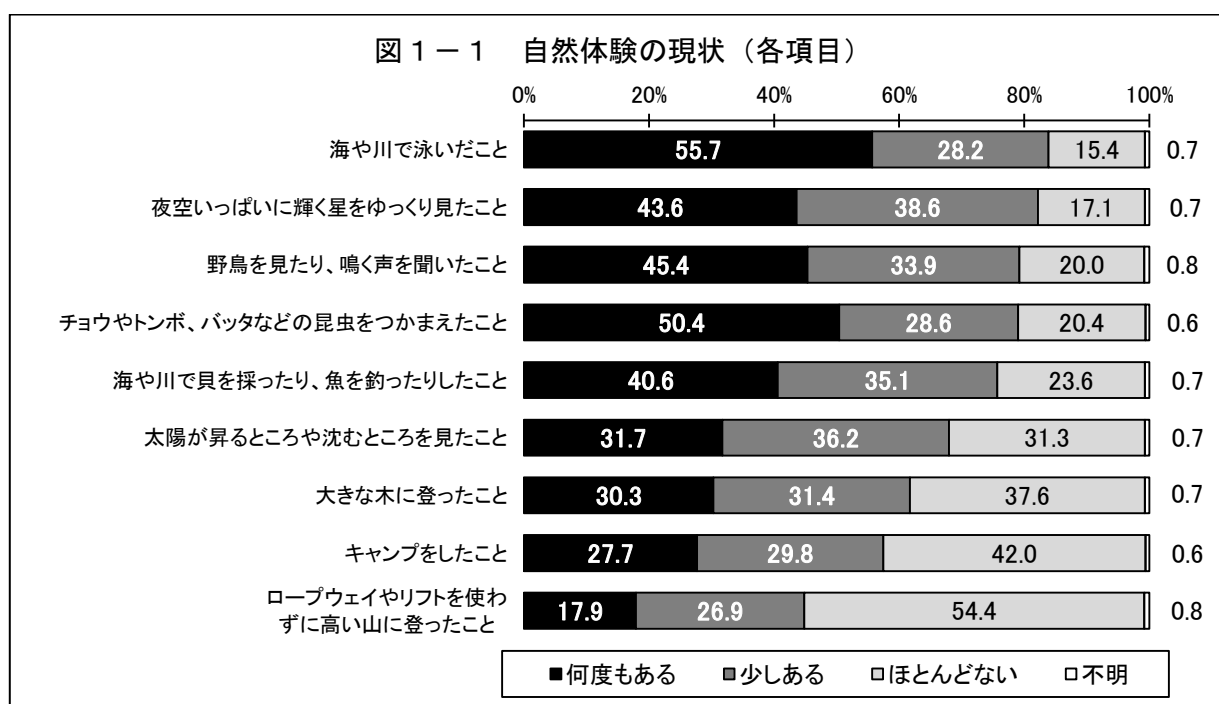
1. 青少年の体験活動等の現状

(1) 自然体験

① 自然体験の現状（小4～6、中2、高2）

以下の自然体験に関する項目に対して「何度もある」「少しある」と答えた者の割合の合計をみると、「海や川で泳いだこと」（83.9%）が最も高く、次いで「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」（82.2%）や「野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと」（79.3%）となっている。

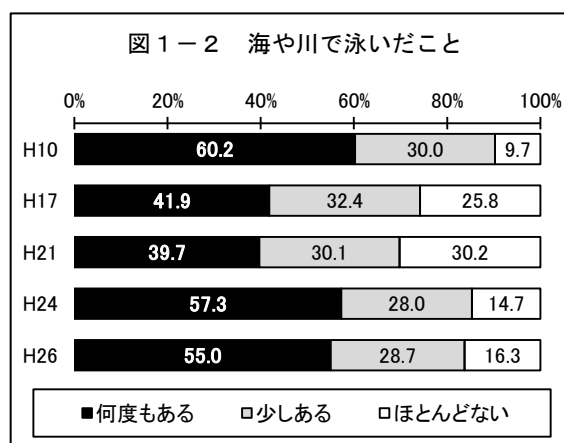
一方、他の自然体験に関する項目と比べて低かったものは、「キャンプをしたこと」（57.5%）や「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」（44.8%）となっている。

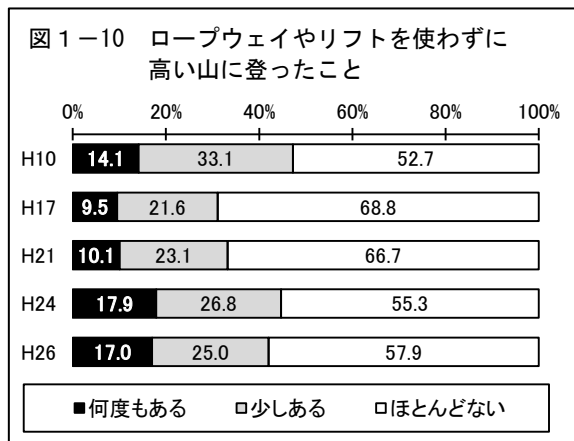
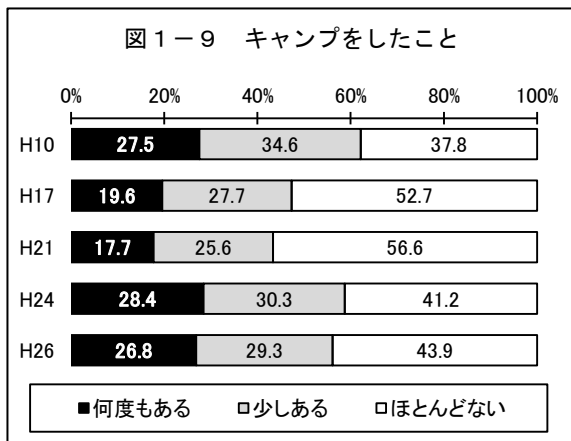
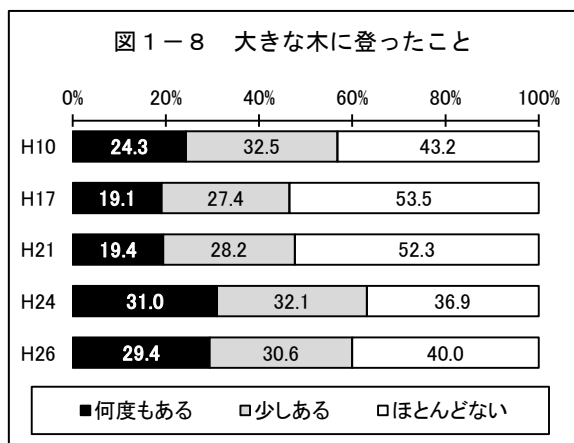
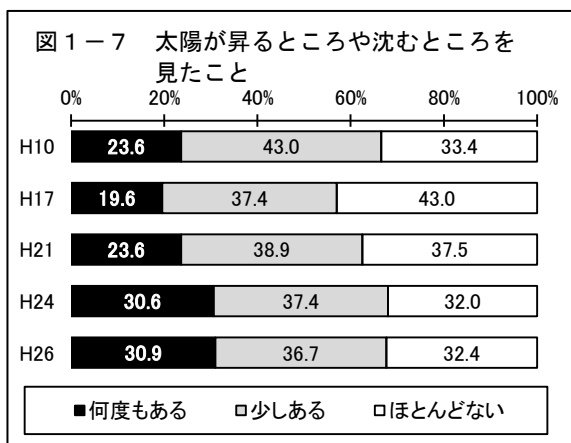
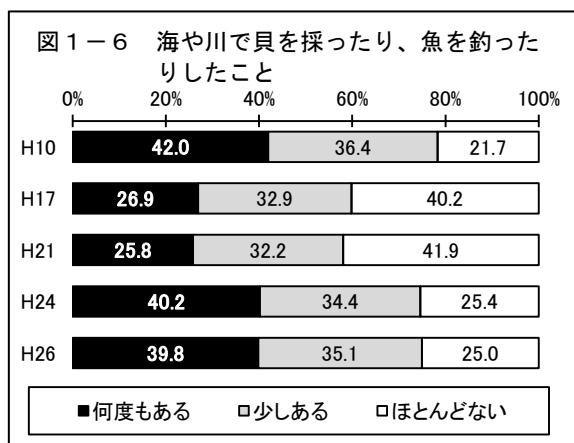
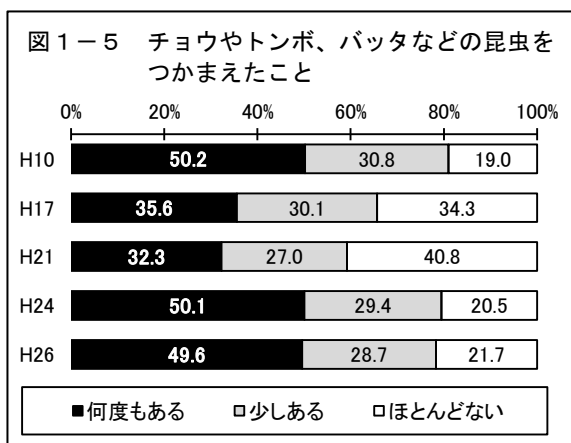
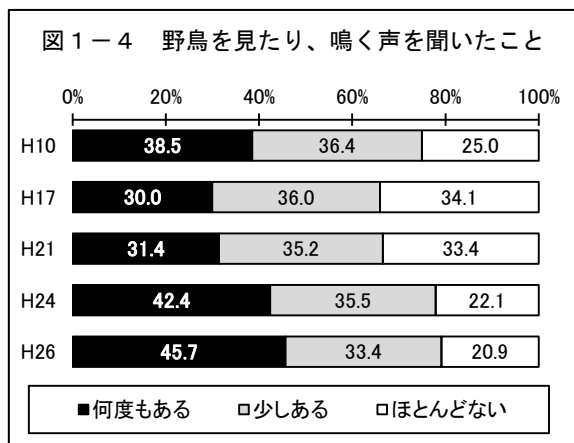
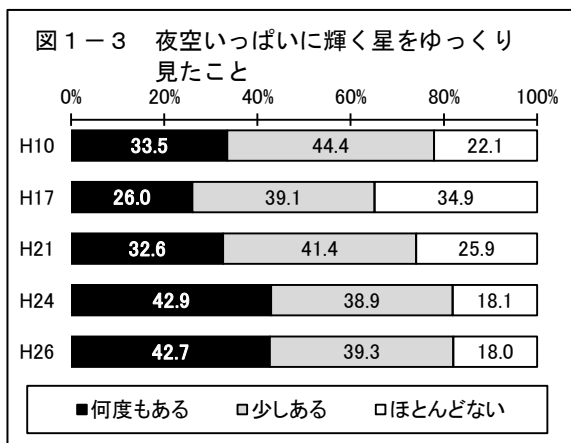


② 自然体験の推移（小4、小6、中2）

自然体験の実施状況（「何度もある」「少しある」と答えた者の割合の合計）を平成10年度調査と比較すると、「野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと」（H10:74.9%→H26:79.1%）や「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」（H10:77.9%→H26:82.0%）などの項目で増加傾向がみられる。

なお、「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」の実施状況をみると、平成10年度調査以降すべての調査で5割以下となっている。



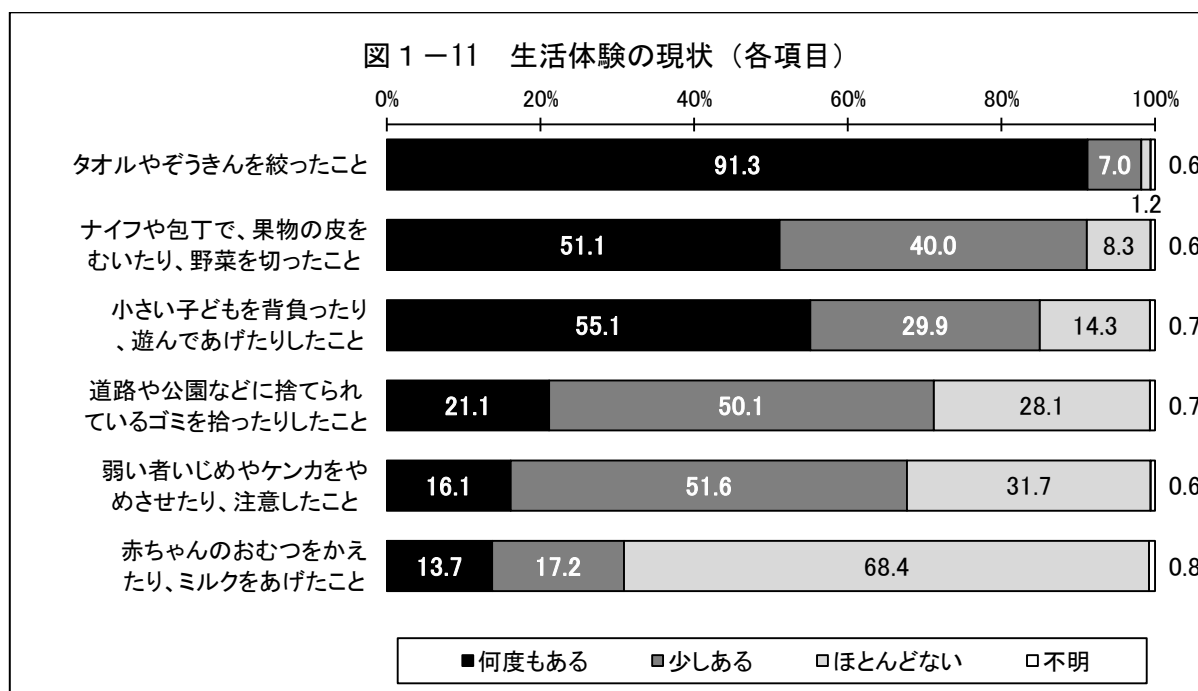


(2) 生活体験

① 生活体験の現状（小4～6、中2、高2）

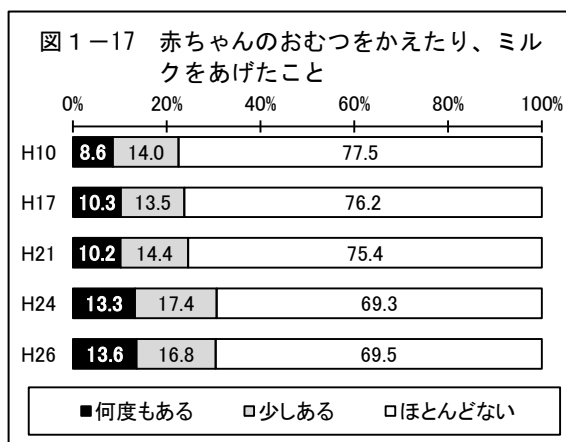
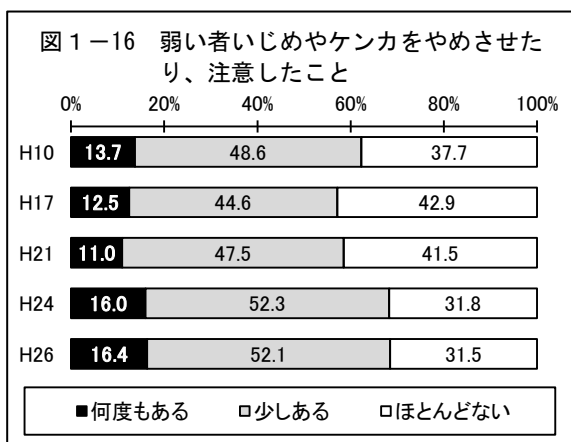
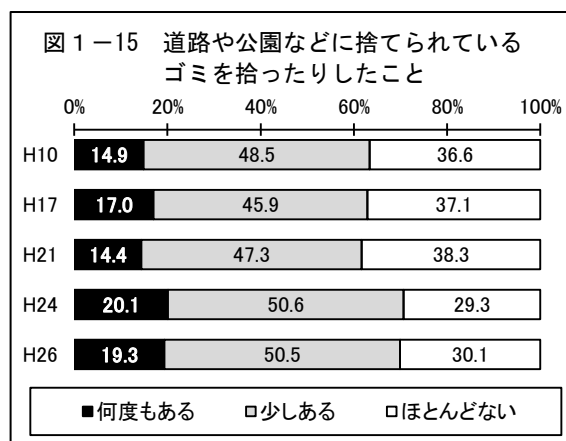
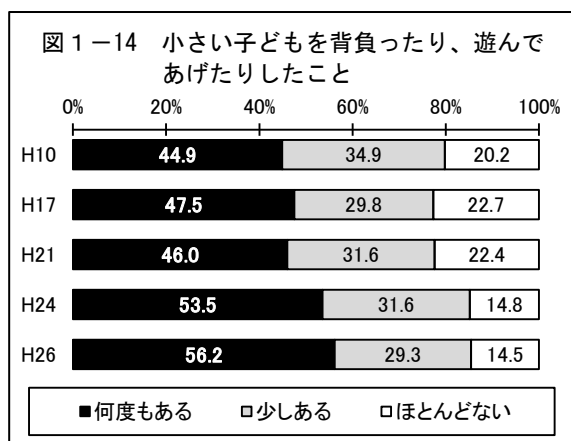
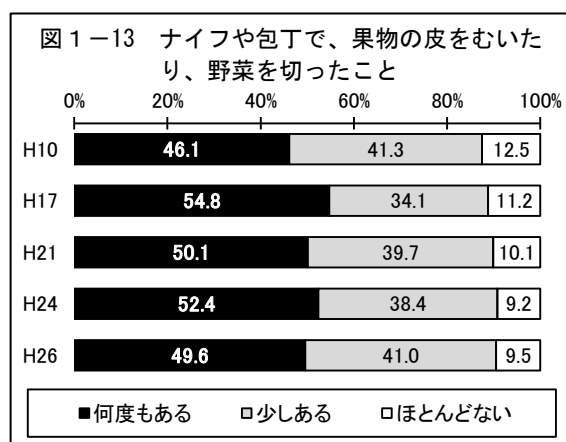
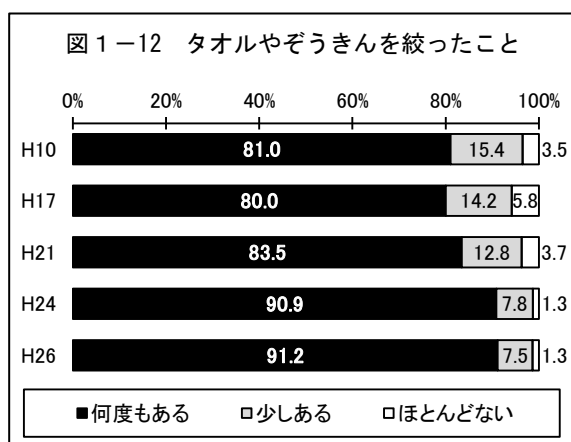
以下の生活体験に関する項目に対して「何度もある」「少しある」と答えた者の割合の合計をみると、「タオルやぞうきんを絞ったこと」（98.3%）が最も高く、次いで「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」（91.1%）や「小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと」（85.0%）となっている。

一方、他の生活体験に関する項目と比べて低かったものは、「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」（30.9%）で3割程度となっている。



② 生活体験の推移（小4、小6、中2）

生活体験の実施状況（「何度もある」「少しある」と答えた者の割合の合計）を平成10年度調査と比較すると、すべての生活体験で増加傾向がみられるが、中でも「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」（H10:22.6%→H26:30.4%）や「道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと」（H10:63.4%→H26:69.8%）、「弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」（H10:62.3%→H26:68.5%）で増加傾向がみられる。

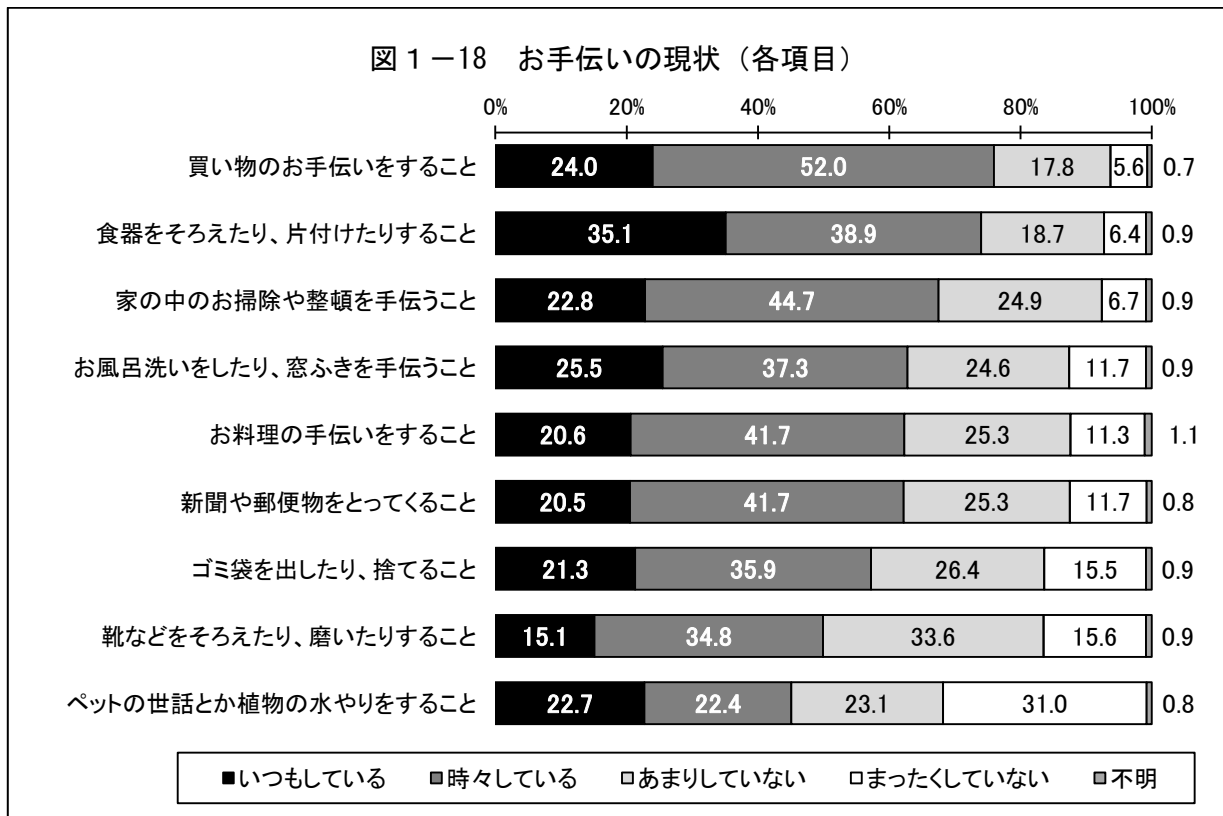


(3) お手伝い

① お手伝いの現状（小4～6、中2、高2）

以下のお手伝いに関する項目に対して「いつもしている」「時々している」と答えた者の割合の合計をみると、「買い物のお手伝いをする事」（76.0%）が最も高く、次いで「食器をそろえたり、片付けたりすること」（74.0%）や「家の中のお掃除や整頓を手伝うこと」（67.5%）となっている。

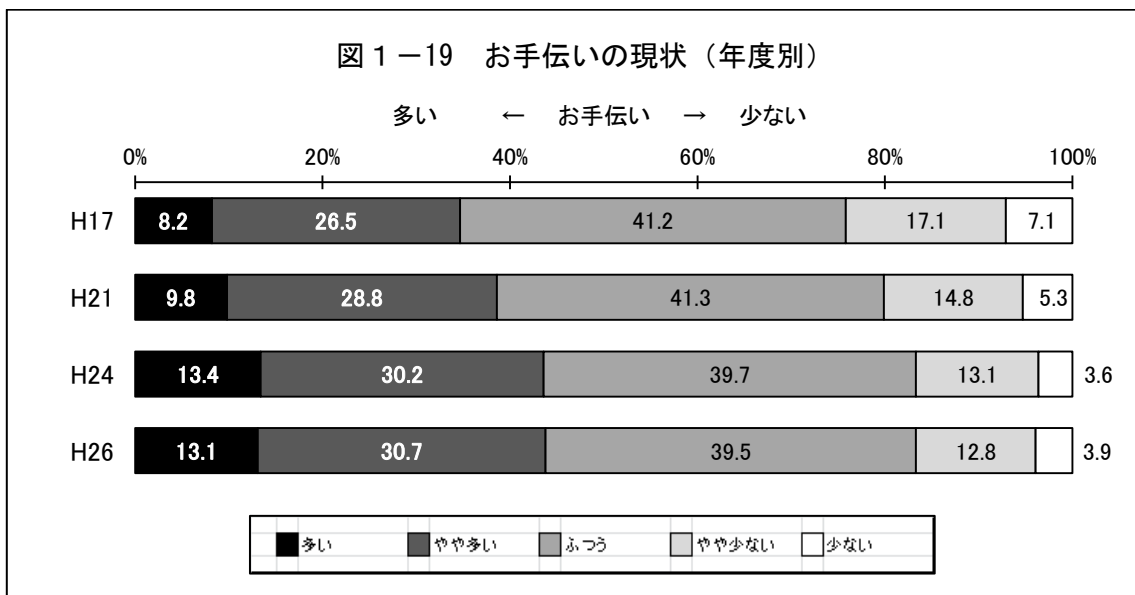
一方、他のお手伝いに関する項目と比べて低かったものは、「靴などをそろえたり、磨いたりすること」（49.9%）や「ペットの世話とか植物の水やりをすること」（45.1%）で5割以下となっている。



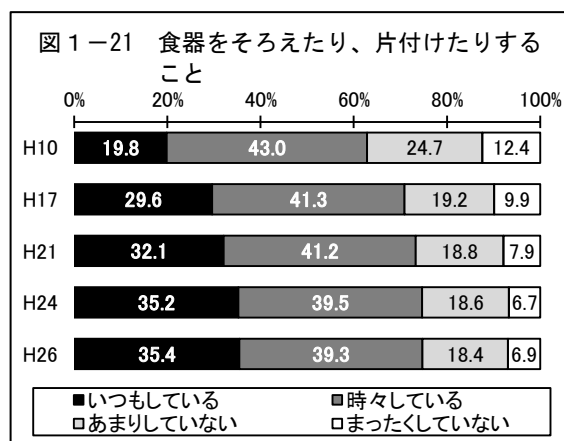
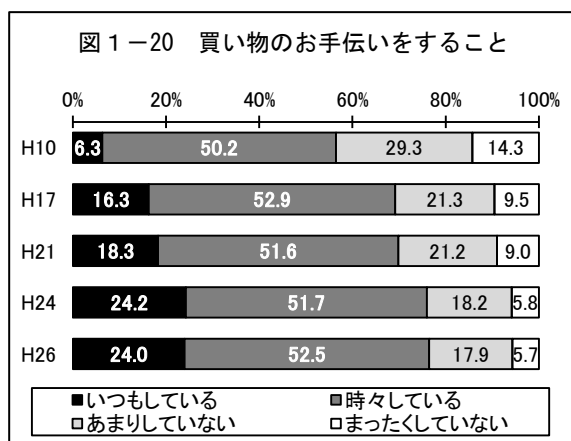
② お手伝いの推移（小4、小6、中2）

お手伝い全体の推移を把握するため、お手伝いの各項目を得点化し、「多い」から「少ない」までの5つに分類して比較を行った。

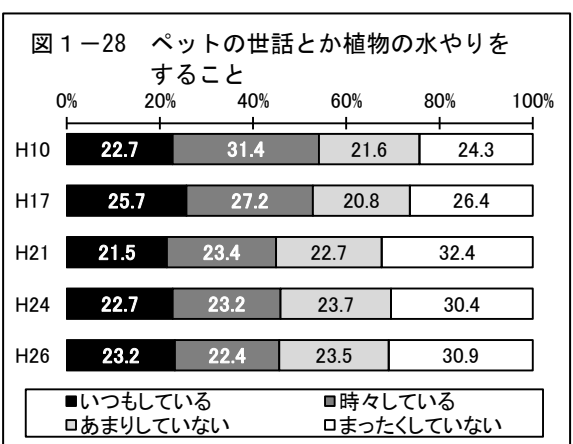
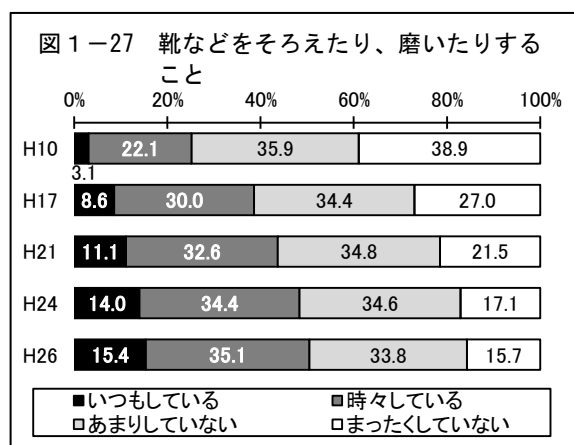
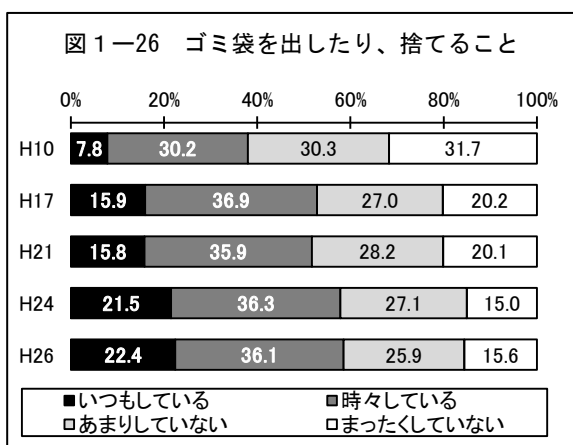
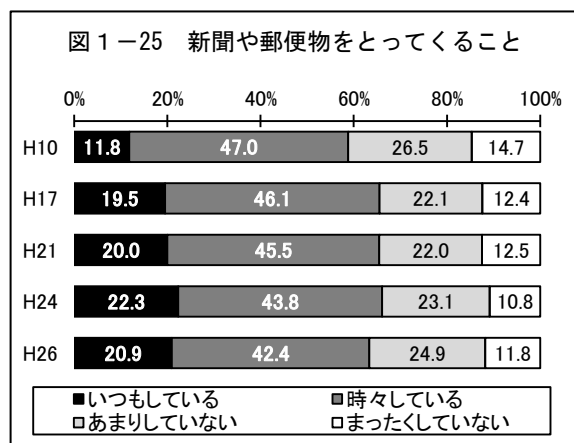
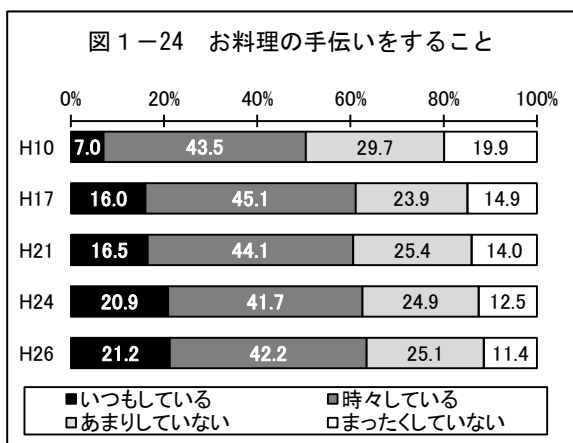
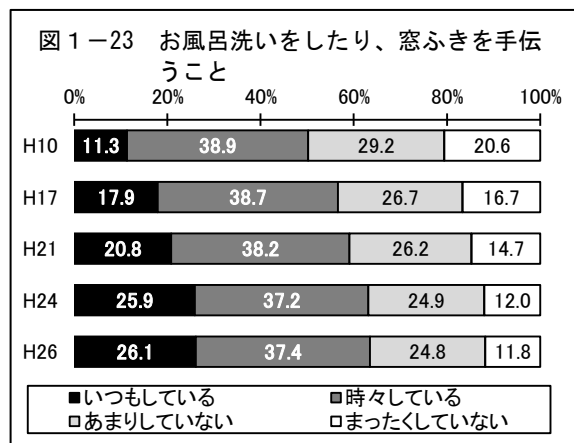
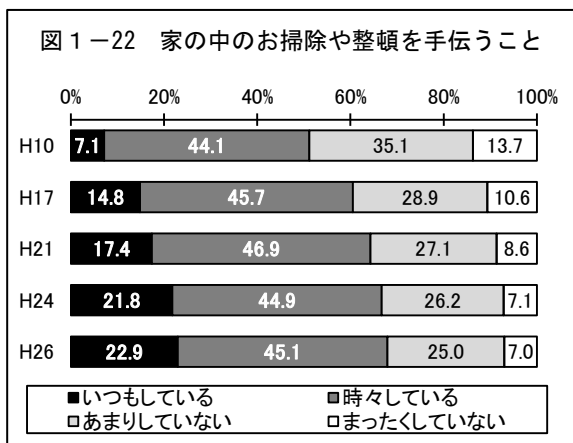
お手伝い全体の推移をみると、平成17年度から平成24年度にかけて「多い」、「やや多い」の割合の合計（H17:34.7%→H21:38.6%→H24:43.6%）が高まっているが、平成24年度以降は大きな変化はみられない。



お手伝いの実施状況（「いつもしている」「時々している」と答えた者の割合の合計）を平成10年度調査と比較すると、「靴などをそろえたり、磨いたりすること」（H10:25.2%→H26:50.5%）や「ゴミ袋を出したり、捨てること」（H10:38.0%→H26:58.5%）、「買い物のお手伝いをする事」（H10:56.5%→H26:76.5%）など、「ペットの世話とか植物の水やりをすること」を除くすべての項目で増加傾向がみられる。



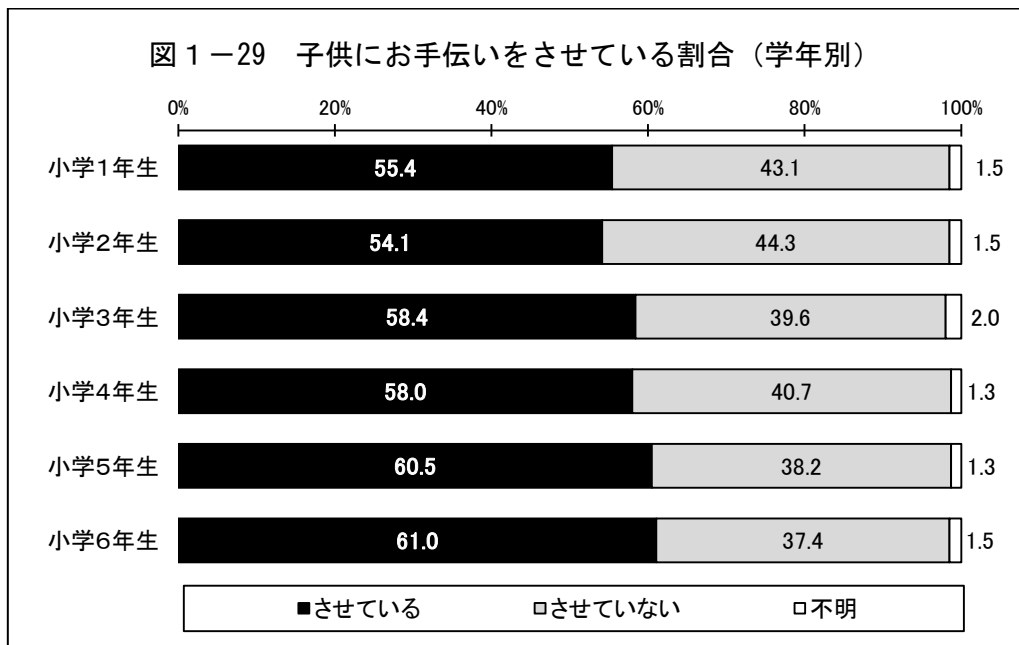
お手伝い：お手伝いに関する9項目を得点化（「いつもしている」を1点、「時々している」を2点、「あまりしていない」を3点、「まったくしていない」を4点）し、各質問項目得点の合計を項目数で割ったものを平均点とし、これを「多い」「やや多い」「ふつう」「やや少ない」「少ない」の5段階に分類した。



③ 子供のお手伝いに関する保護者の関わり（小1～6㊦）

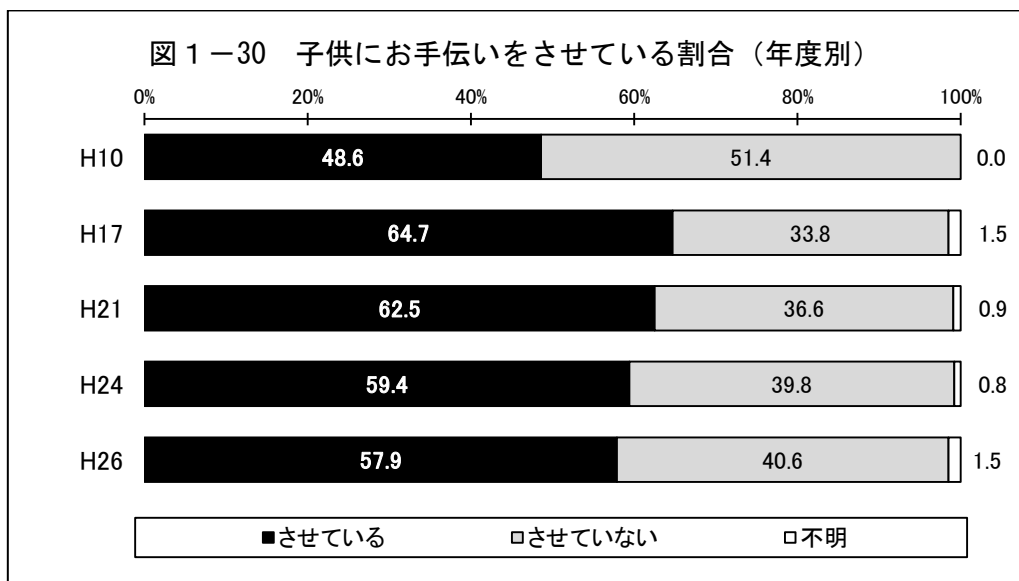
< 学年別の推移 >

保護者が子供にお手伝いを「させている」と回答した割合はいずれの学年でも5割を超えているが、その割合は学年が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、5年生以上になると子供にお手伝いをさせている割合は6割以上となっている。



< 年度別の推移 >

保護者が子供にお手伝いを「させている」と回答した割合を平成10年度から比較すると、平成10年度から平成17年度にかけては子供にお手伝いをさせている割合が大きく増加するが、それ以降はゆるやかに減少している。

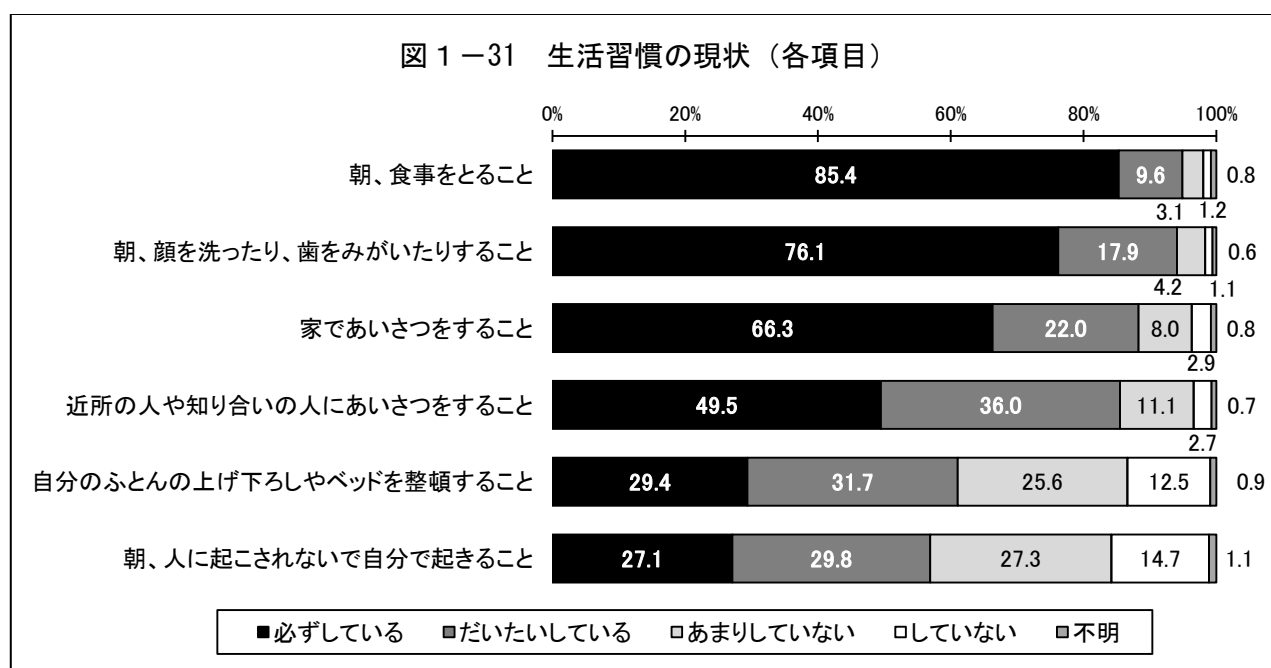


(4) 生活習慣

① 生活習慣の現状（小4～6、中2、高2）

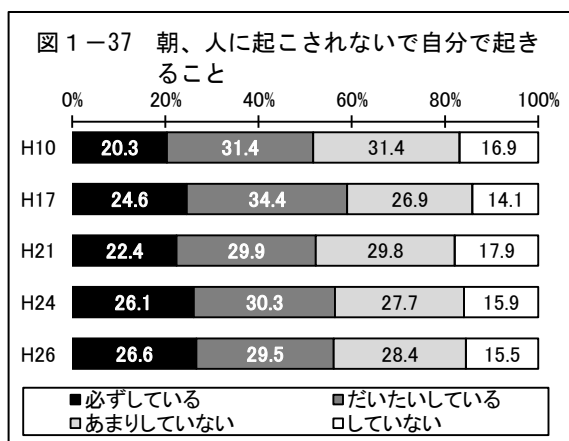
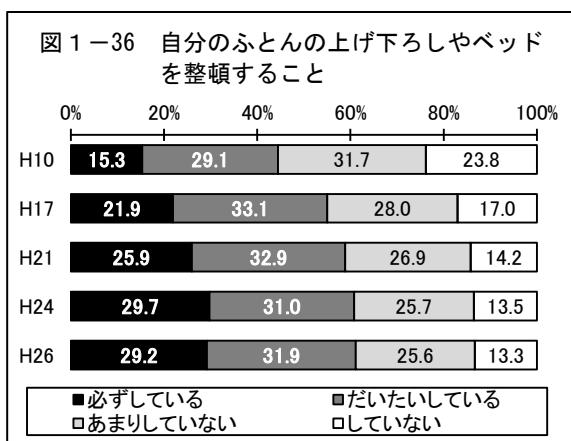
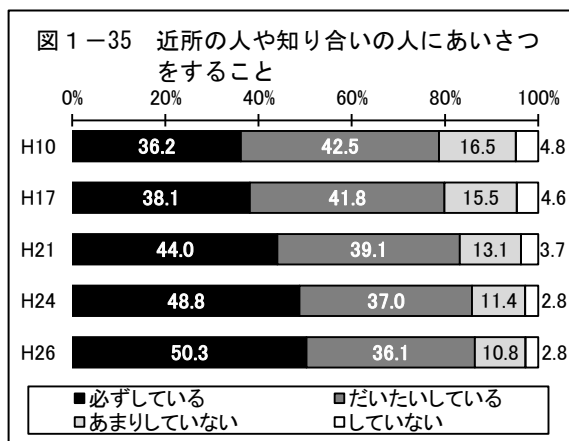
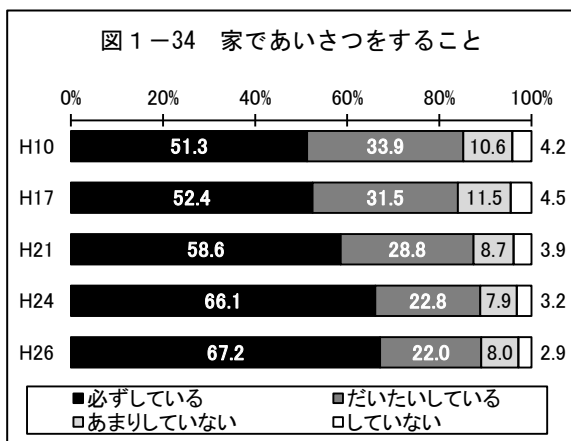
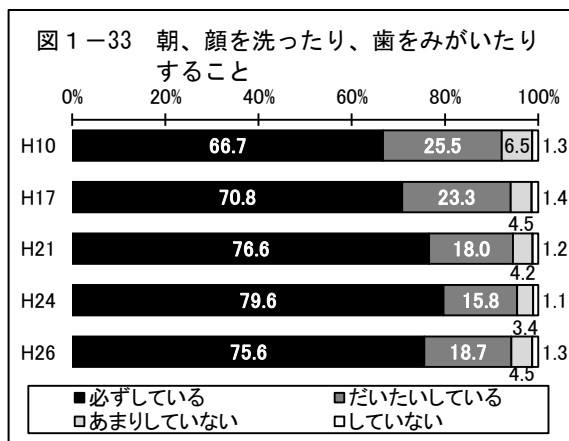
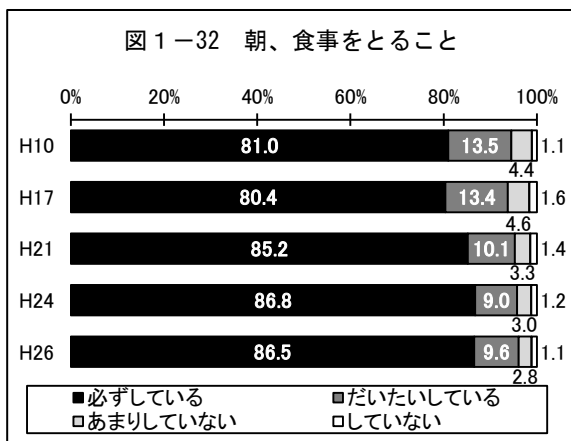
以下の生活習慣に関する項目に対して「必ずしている」「だいたいしている」と答えた者の割合の合計をみると、「朝、食事をとること」(95.0%)が最も多く、次いで「朝、顔を洗ったり、歯をみがいたりすること」(94.0%)や「家であいさつをすること」(88.3%)となっている。

一方、他の生活習慣に関する項目と比べて低かったものは、「自分でふとんの上げ下ろしやベッドを整頓すること」(61.1%)や「朝、人に起こされなくて自分で起きること」(56.9%)となっている。



② 生活習慣の推移（小4、小6、中2）

生活習慣の実施状況（「必ずしている」「だいたいしている」と答えた者の割合の合計）を平成10年度調査と比較すると、「自分でふとんの上げ下ろしやベッドを整頓すること」（H10:44.4%→H26:61.1%）や「近所の人や知り合いの人にあいさつをすること」（H10:78.7%→H26:86.4%）、「朝、人に起こされなくて自分で起きること」（H10:51.7%→H26:56.1%）などすべての項目で増加傾向がみられる。

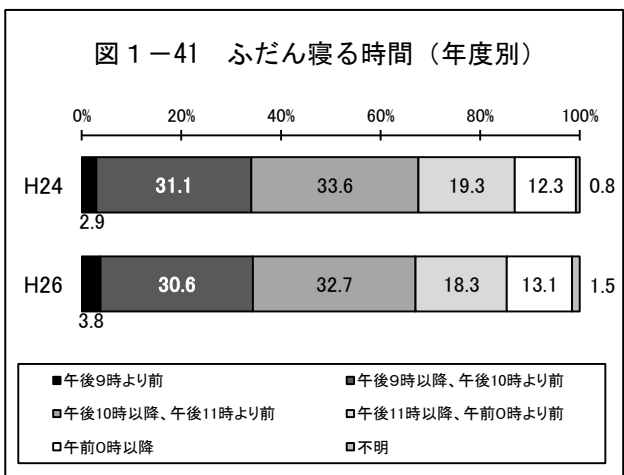
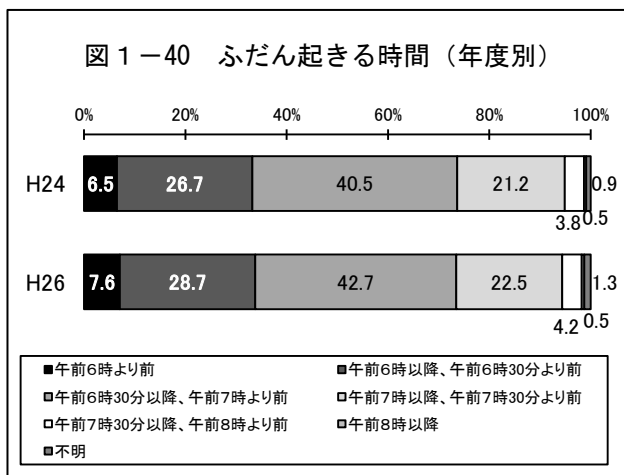
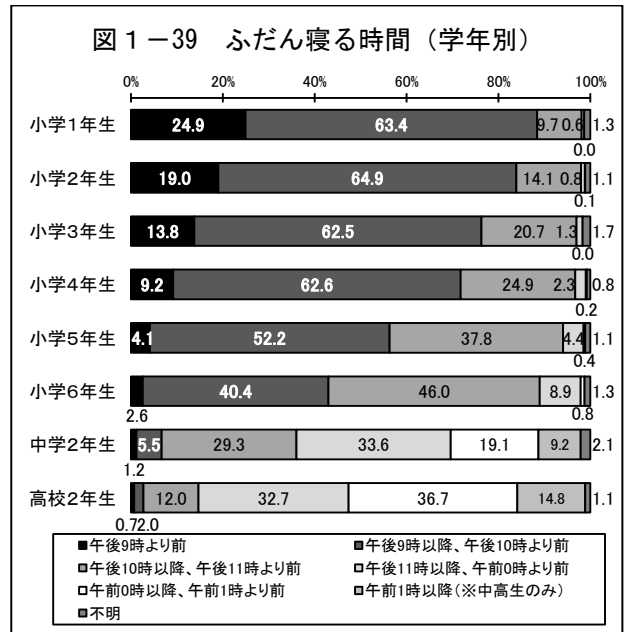
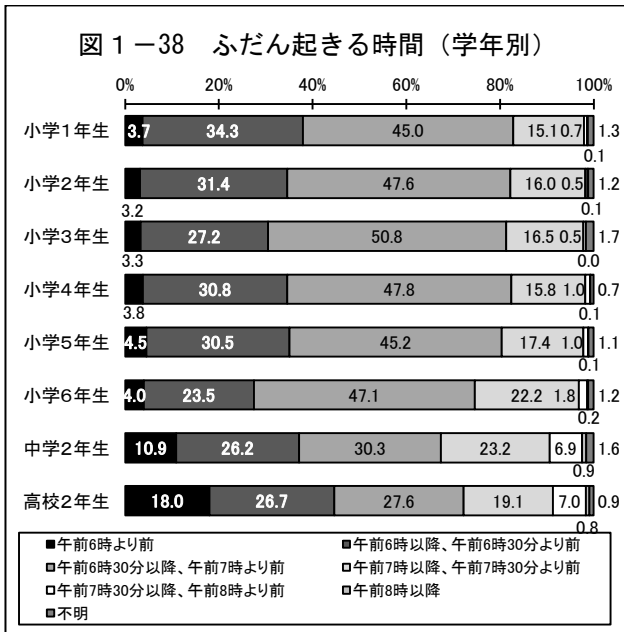


③ ふだん起きる時間・ふだん寝る時間の現状と推移（小1～6㊦、中2、高2）

ふだん起きる時間を学年別で見ると、いずれの学年でも「午前6時30分以降、午前7時より前」と回答する割合が最も高く、次いで「午前6時以降、午前6時30分より前」となっている。しかし、中学生・高校生になると「午前6時より前」または、午前7時以降に起きる割合が高くなる傾向が見られる。

ふだん寝る時間を学年別で見ると、小学5年生までは「午後9時以降、午後10時より前」と回答した割合が5割以上であるのに対し、小学6年生になると午後10時以降に寝る割合が6割程度となり、高校生になると午前0時以降に寝る割合が5割以上となっている。

ふだん起きる時間やふだん寝る時間を平成24年度調査と比較すると、大きな変化はみられなかった。

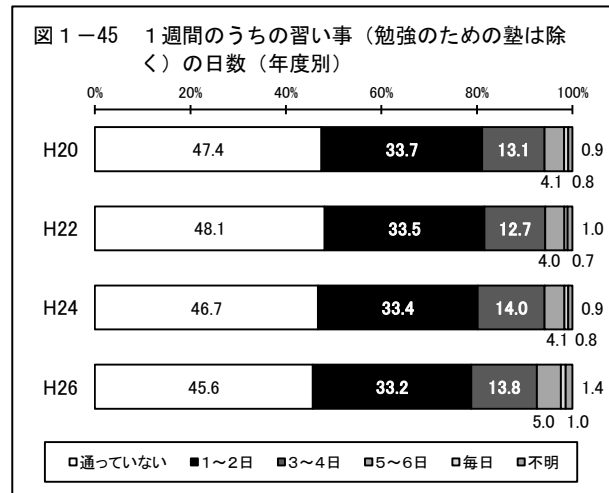
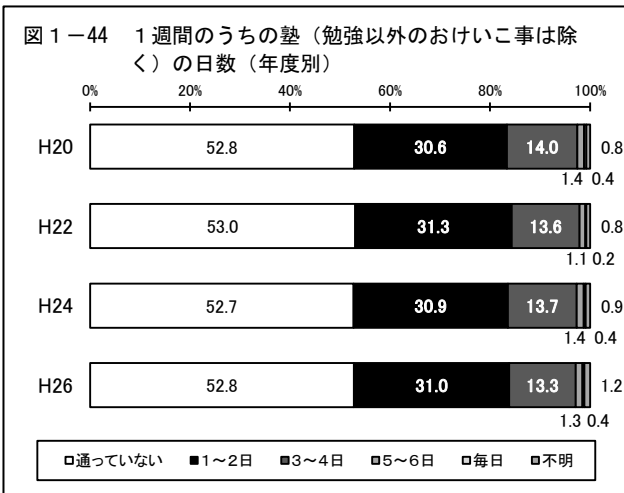
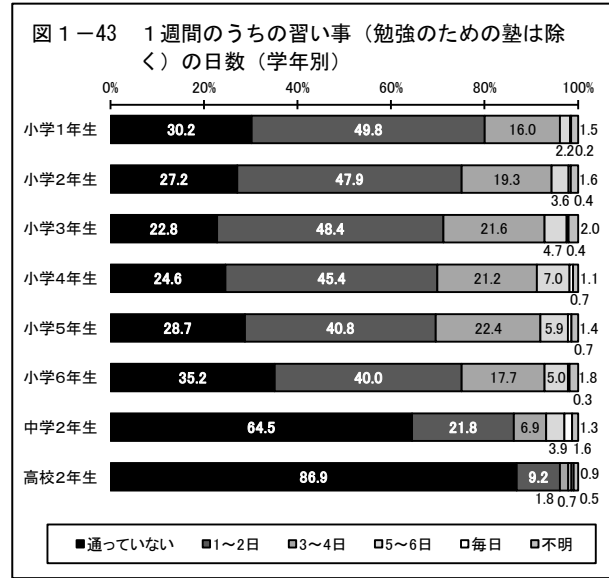
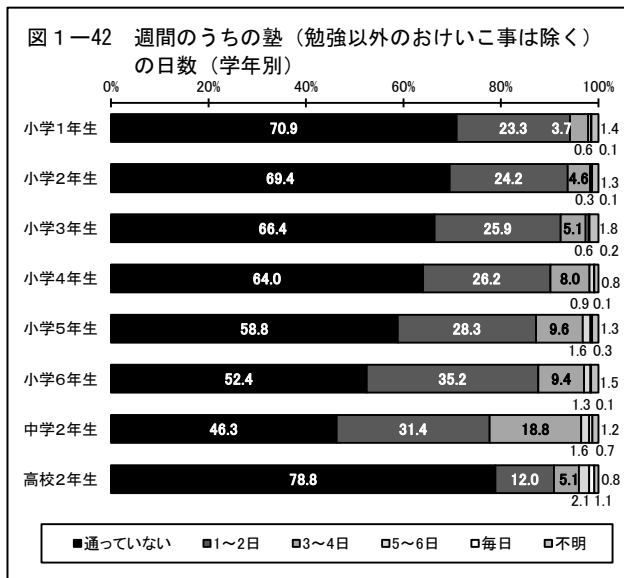


④ 塾・習い事の現状と推移（小1～6㊦、中2、高2）

1週間のうちの塾（勉強以外のおけいこ事は除く）の日数をみると、学年が上がるにつれて「1～2日」や「3～4日」と回答した割合が高くなるが、高校生になると「通っていない」と回答する割合が高くなり8割程度となっている。

1週間のうちの習い事（勉強のための塾は除く）の日数をみると、小学生では「通っていない」と回答した割合が4割以下であるのに対し、中学生では6割を超え、高校生では8割以上となっている。

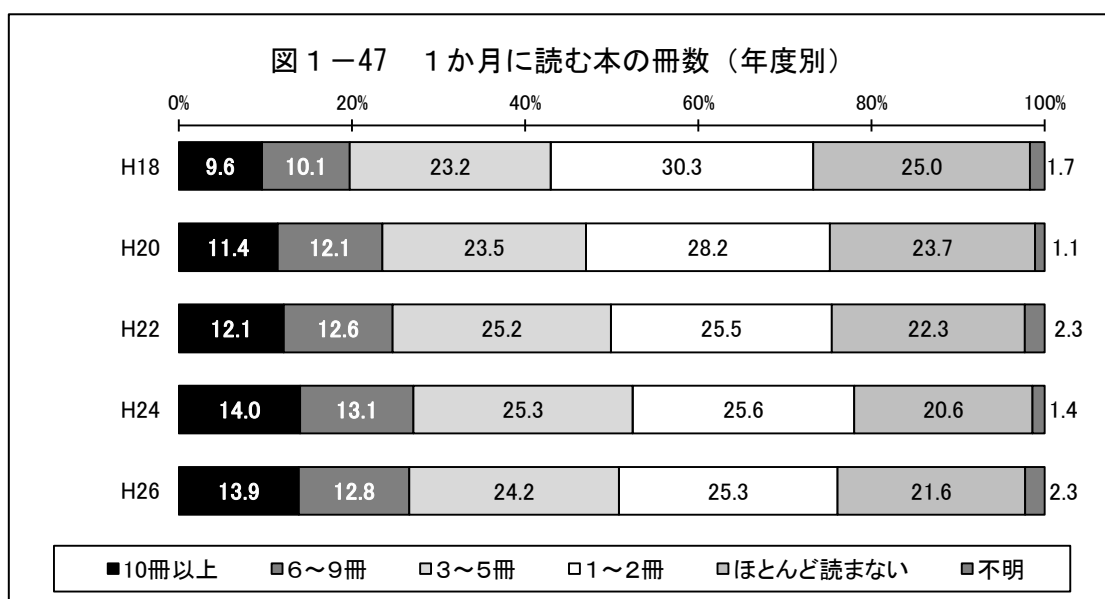
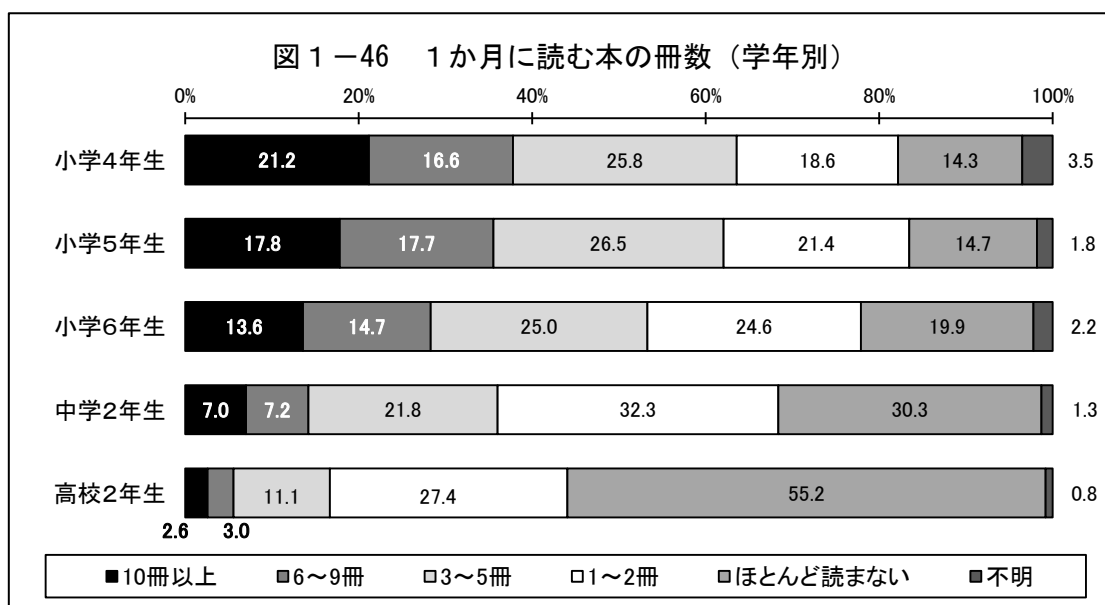
塾や習い事の日数を平成20年度調査から比較すると、大きな変化はみられなかった。



⑤ 読書活動の現状と推移（小4～6、中2、高2）

1か月に読む本の冊数を学年別にみると、学年が上がるにつれて読む本の冊数は減少し、高校生になると「ほとんど読まない」（55.2%）と回答した割合が5割以上になっている。

1か月に読む本の冊数を平成18年度調査から比較したところ、多少の増減はあるものの、平成18年度から平成26年度にかけてゆるやかな増加傾向がみられる。



2. 青少年の意識等の現状

(1) 自己肯定感

① 自己肯定感の現状（小4～6、中2、高2）

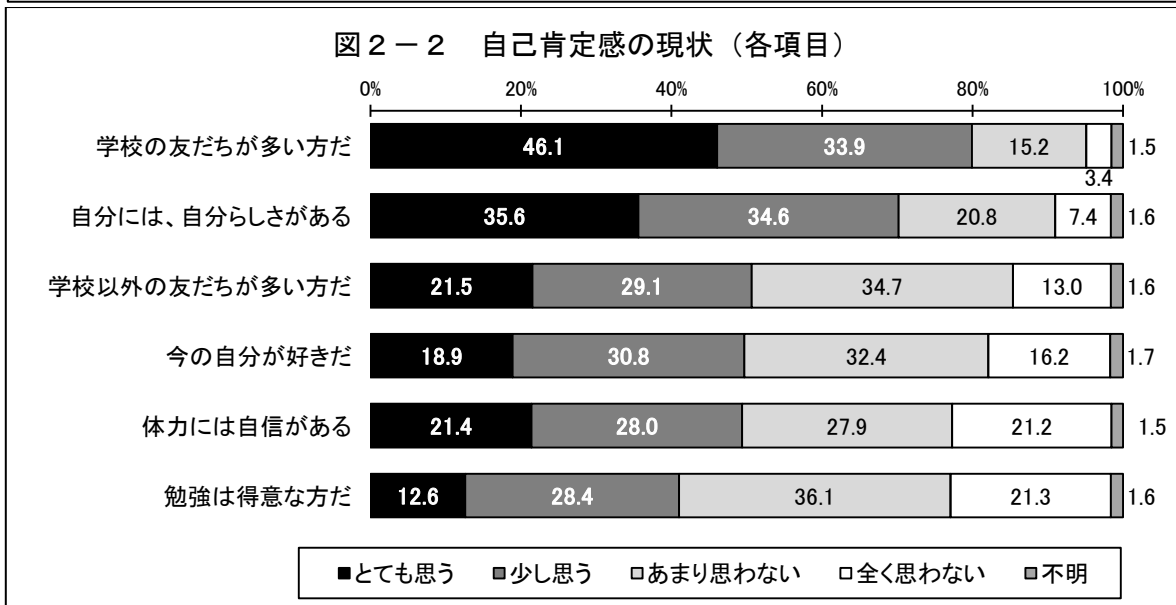
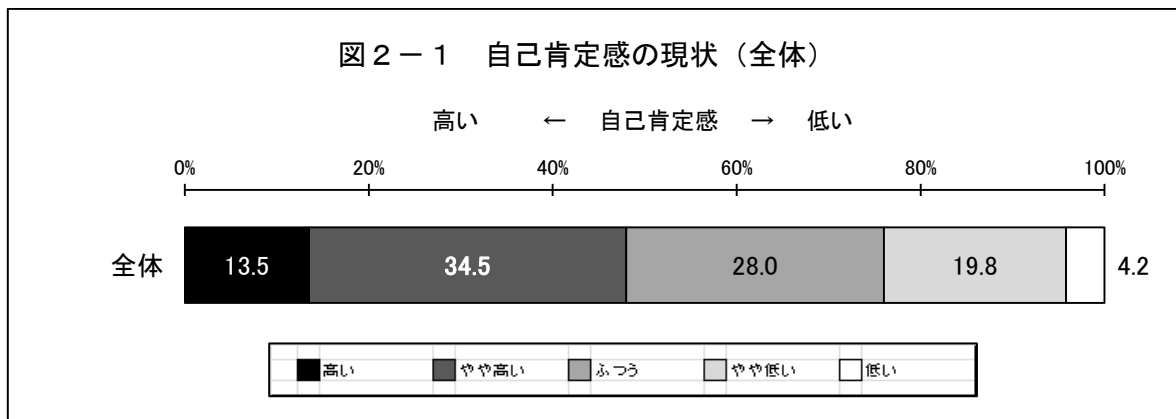
<全体>

自己肯定感の現状や推移を把握するため、自己肯定感の各項目を得点化し、「多い」から「少ない」までの5つに分類して集計を行った。

青少年の自己肯定感の全体的な傾向をみると、自己肯定感が「高い」「やや高い」の割合の合計（48.0%）は5割程度となっている。

自己肯定感に関する項目に対して「とても思う」「少し思う」と答えた者の割合の合計をみると、「学校の友だちが多い方だ」（80.0%）が最も高く、次いで「自分には、自分らしさがある」（70.2%）や「学校以外の友だちが多い方だ」（50.6%）となっている。

一方、他の自己肯定感に関する項目と比べて低かったものは「勉強は得意な方だ」（41.0%）となっている。

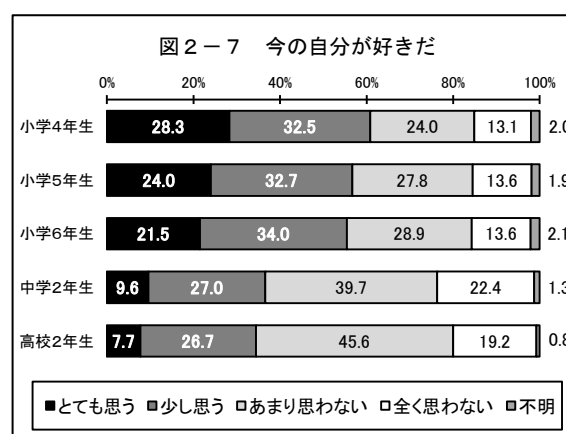
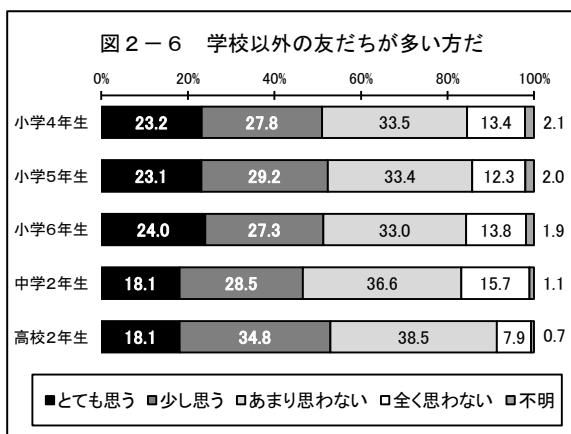
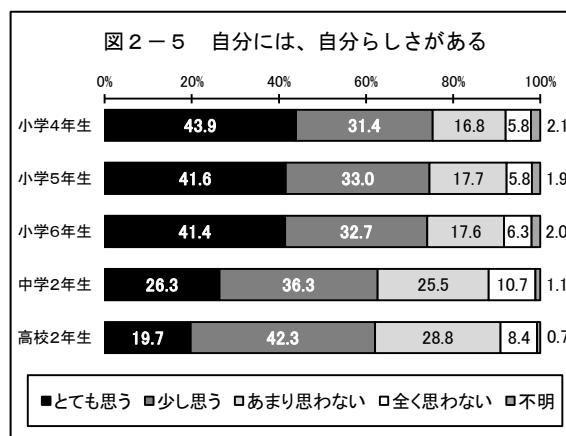
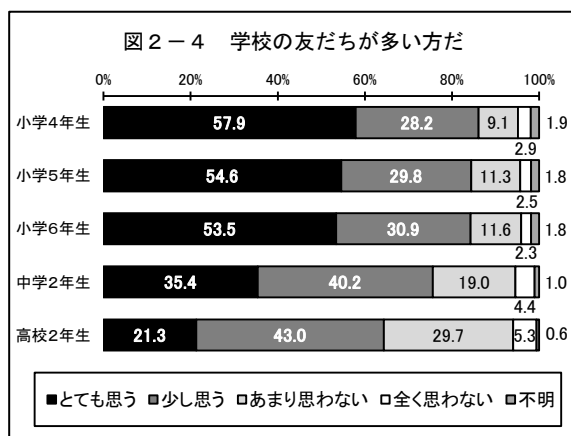
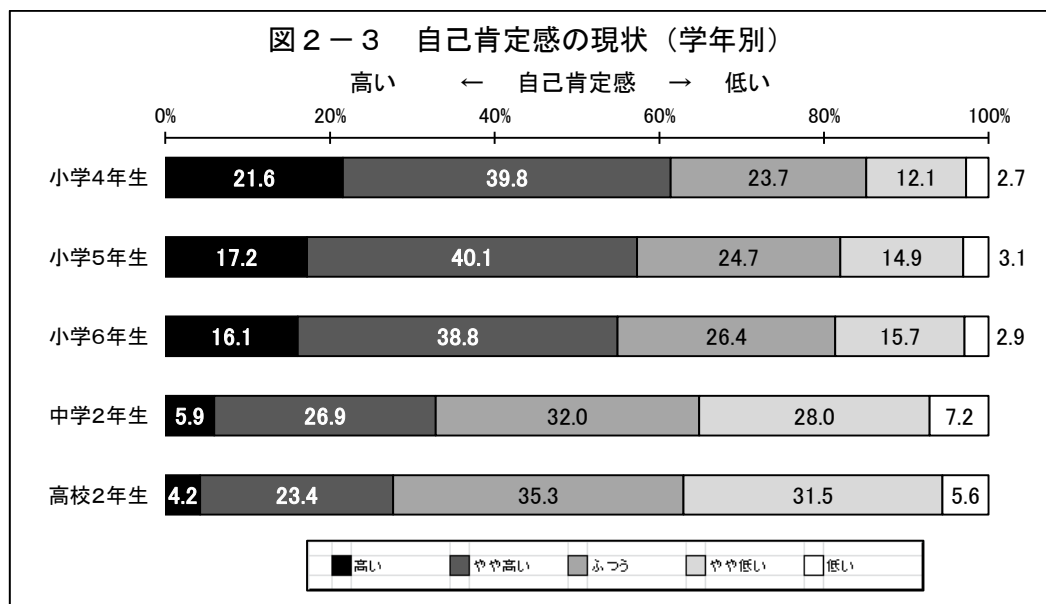


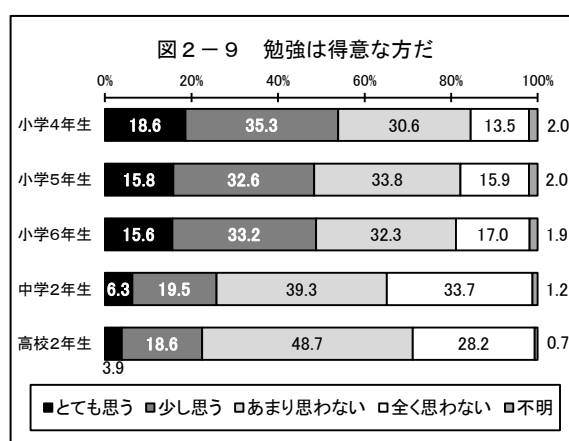
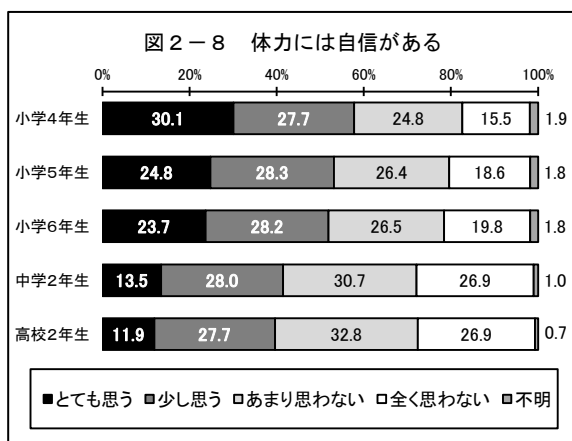
自己肯定感：自己肯定感に関する6項目を得点化（「とても思う」を1点、「少し思う」を2点、「あまり思わない」を3点、「全く思わない」を4点）し、各質問項目得点の合計を項目数で割ったものを平均点とし、これを「高い」「やや高い」「ふつう」「やや低い」「低い」の5段階に分類した。ただし、自己肯定感に関する質問項目のうち「体力には自信がある」は平成24年度調査から追加した項目であるため、経年の比較を行う際には除外して集計している。

< 学年別 >

自己肯定感全体の現状を学年別にみると、学年が上がるにつれて「高い」「やや高い」の割合の合計は低くなり、小学生から中学生にかけては著しく低下する傾向がみられる。

各項目でみると、「学校以外の友だちが多い方だ」を除くすべての項目で、「とても思う」「少し思う」と答えた者の割合の合計が学年が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

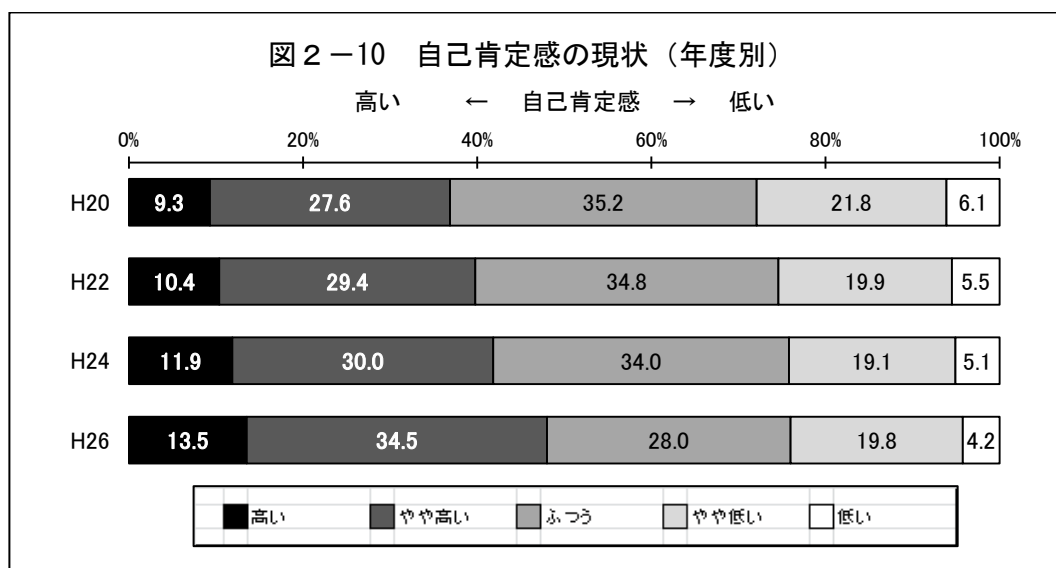




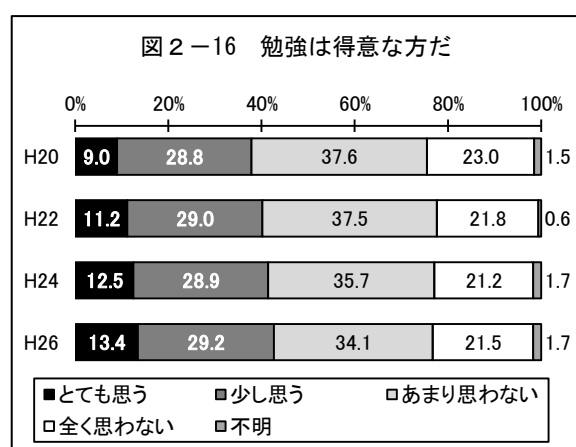
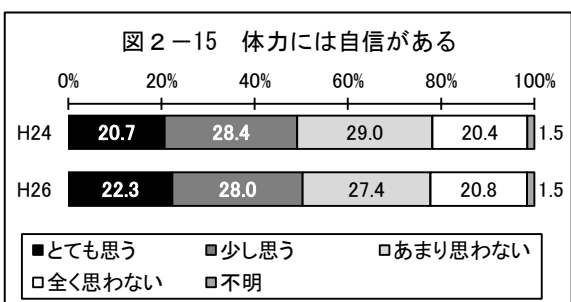
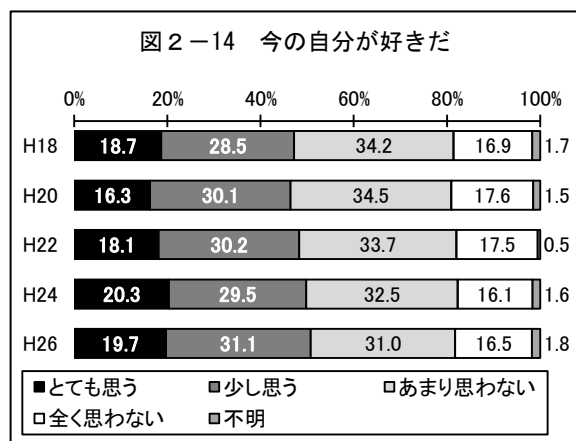
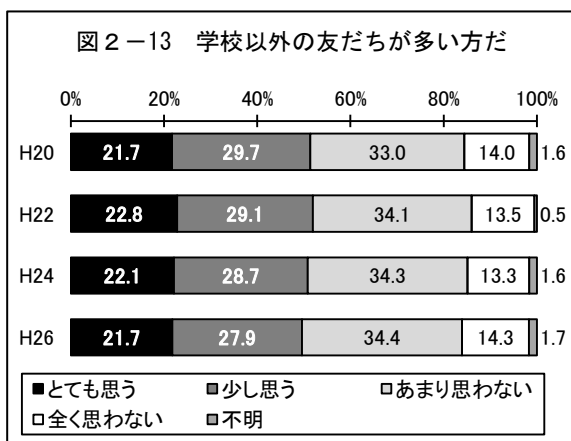
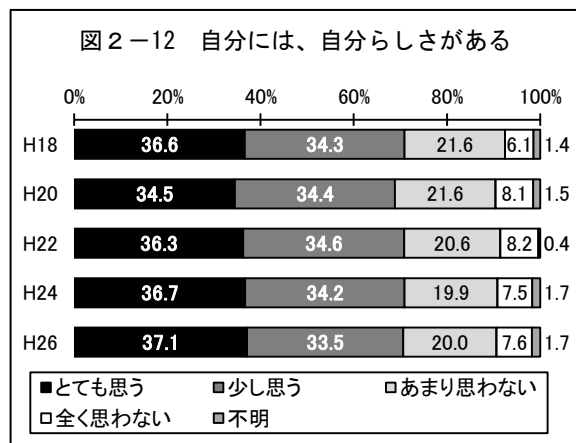
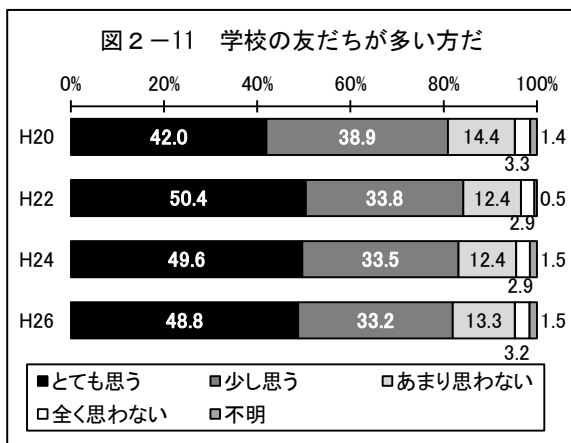
② 自己肯定感の推移（小4、小6、中2）

自己肯定感全体の推移をみると、平成 20 年度から平成 26 年度にかけて「高い」「やや高い」の割合の合計（H20:36.9%→H22:39.8%→H24:41.9%→H26:48.0%）が高くなっている。

自己肯定感に関する各項目について「何度もある」「少しある」と答えた者の割合の合計の推移をみると、「勉強は得意な方だ」（H20:37.8%→H22:40.2%→H24:41.4%→H26:42.6%）や「今の自分が好きだ」（H18:47.2%→H20:46.4%→H22:48.3%→H24:49.8%→H26:50.8%）は若干の増加傾向がみられるものの、その他の項目は大きな変化が見られない。

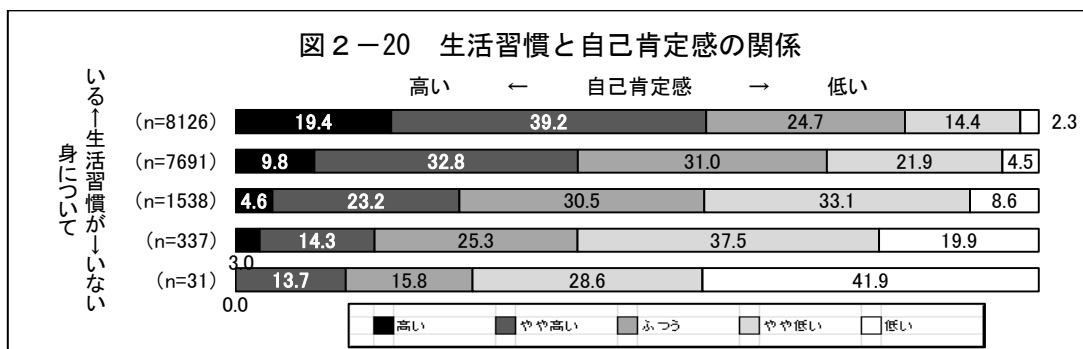
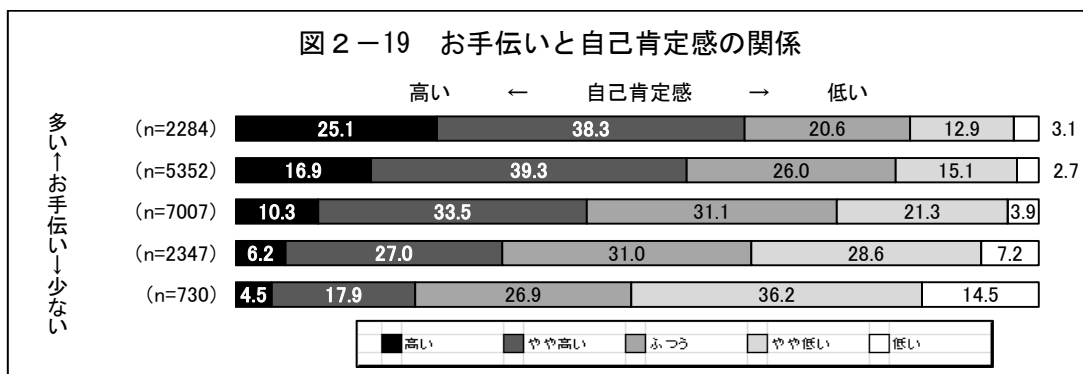
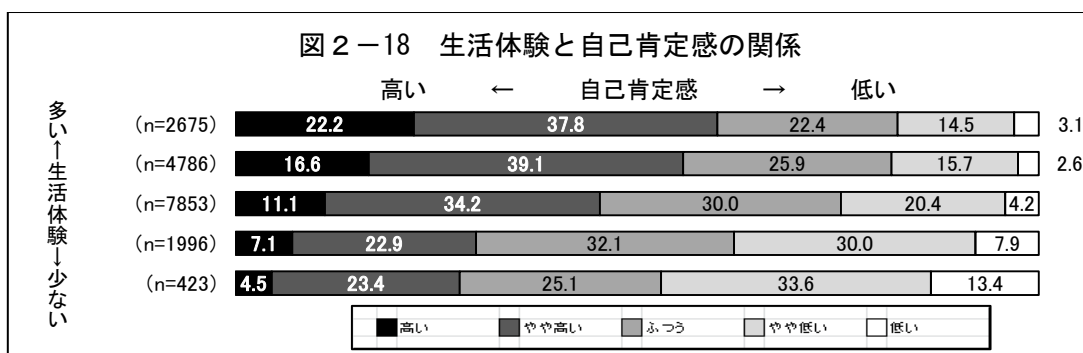
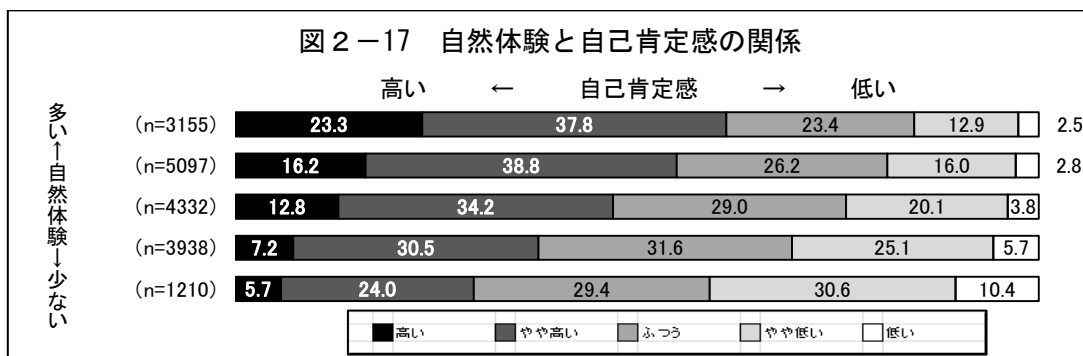


注)「自己肯定感の現状（年度別）」については、小4～6、中2、高2を集計対象としている



③ 体験活動と自己肯定感の関係 (小4～6、中2、高2)

体験活動と自己肯定感の関係をみると、自然体験や生活体験、お手伝いといった体験が豊富な者や、朝食をとる、あいさつをするといった生活習慣が身についている者ほど自己肯定感が高くなる傾向がみられる。



④ 自己肯定感に関する各項目の関係

自己肯定感に関する6つの項目の関係性を把握するため、学年（小学校4～6年、中学校2年生、高校2年生）ごとに各項目の相関関係をみると、「今の自分が好きだ」、「自分には、自分らしさがある」、「体力には自信がある」はいずれの学年でも他の5項目と相関関係がみられ、中でも「今の自分が好きだ」、「自分には、自分らしさがある」は他の項目より強い相関関係がみられる。

また、小学生ではすべての項目間に相関関係がみられるのに対し、中学生・高校生では「勉強は得意な方だ」で相関関係がみられない項目（「学校の友だちが多いほうだ」または「学校以外の友だちが多いほうだ」）がある。

表2-1 自己肯定感に関する質問項目の相関（小学校4～6年生）

	学校の友だちが多いほうだ	学校以外の友だちが多いほうだ	勉強は得意な方だ	今の自分が好きだ	自分には、自分らしさがある	体力には自信がある
学校の友だちが多いほうだ		.401	.325	.426	.444	.419
学校以外の友だちが多いほうだ	.401		.246	.253	.296	.360
勉強は得意な方だ	.325	.246		.419	.419	.303
今の自分が好きだ	.426	.253	.419		.638	.369
自分には、自分らしさがある	.444	.296	.419	.638		.396
体力には自信がある	.419	.360	.303	.369	.396	

表2-2 自己肯定感に関する質問項目の相関（中学2年生）

	学校の友だちが多いほうだ	学校以外の友だちが多いほうだ	勉強は得意な方だ	今の自分が好きだ	自分には、自分らしさがある	体力には自信がある
学校の友だちが多いほうだ		.371	.197	.384	.387	.392
学校以外の友だちが多いほうだ	.371		.126	.210	.269	.307
勉強は得意な方だ	.197	.126		.405	.324	.277
今の自分が好きだ	.384	.210	.405		.613	.394
自分には、自分らしさがある	.387	.269	.324	.613		.384
体力には自信がある	.392	.307	.277	.394	.384	

表2-3 自己肯定感に関する質問項目の相関（高校2年生）

	学校の友だちが多いほうだ	学校以外の友だちが多いほうだ	勉強は得意な方だ	今の自分が好きだ	自分には、自分らしさがある	体力には自信がある
学校の友だちが多いほうだ		.497	.219	.342	.327	.360
学校以外の友だちが多いほうだ	.497		.152	.257	.268	.284
勉強は得意な方だ	.219	.152		.388	.260	.222
今の自分が好きだ	.342	.257	.388		.581	.331
自分には、自分らしさがある	.327	.268	.260	.581		.311
体力には自信がある	.360	.284	.222	.331	.311	

【参考】平成 24 年度調査結果

「青少年の体験活動に関する実態調査（平成 24 年度調査）」より

表 2-4 自己肯定感に関する質問項目の相関（小学校 4～6 年生）

	学校の友だちが多い方だ	学校以外の友だちが多い方だ	勉強は得意な方だ	今の自分が好きだ	自分には、自分らしさがある	体力には自信がある
学校の友だちが多い方だ		.284	.217	.288	.275	.319
学校以外の友だちが多い方だ	.284		.155	.162	.190	.271
勉強は得意な方だ	.217	.155		.359	.324	.232
今の自分が好きだ	.288	.162	.359		.574	.285
自分には、自分らしさがある	.275	.190	.324	.574		.290
体力には自信がある	.319	.271	.232	.285	.290	

表 2-5 自己肯定感に関する質問項目の相関（中学校 2 年生）

	学校の友だちが多い方だ	学校以外の友だちが多い方だ	勉強は得意な方だ	今の自分が好きだ	自分には、自分らしさがある	体力には自信がある
学校の友だちが多い方だ		.343	.139	.289	.296	.345
学校以外の友だちが多い方だ	.343		.090	.187	.198	.283
勉強は得意な方だ	.139	.090		.360	.291	.259
今の自分が好きだ	.289	.187	.360		.586	.347
自分には、自分らしさがある	.296	.198	.291	.586		.342
体力には自信がある	.345	.283	.259	.347	.342	

表 2-6 自己肯定感に関する質問項目の相関（高校 2 年生）

	学校の友だちが多い方だ	学校以外の友だちが多い方だ	勉強は得意な方だ	今の自分が好きだ	自分には、自分らしさがある	体力には自信がある
学校の友だちが多い方だ		.490	.163	.303	.297	.316
学校以外の友だちが多い方だ	.490		.102	.192	.225	.261
勉強は得意な方だ	.163	.102		.374	.239	.220
今の自分が好きだ	.303	.192	.374		.553	.287
自分には、自分らしさがある	.297	.225	.239	.553		.299
体力には自信がある	.316	.261	.220	.287	.299	

相関関係の強さの目安

相関係数	相関関係
0.0～±0.2	ほとんど相関がない
±0.2～±0.4	やや相関がある
±0.4～±0.7	相関がある
±0.7～±0.9	強い相関がある
±0.9～±1.0	極めて強い相関がある

※相関関係とは、2つの変数の関連度合いを示す統計学的指標。相関係数による相関関係の強さの目安は、一般的に左表のように表される。

(2) 道徳観・正義感

① 道徳観・正義感の現状（小4～6、中2、高2）

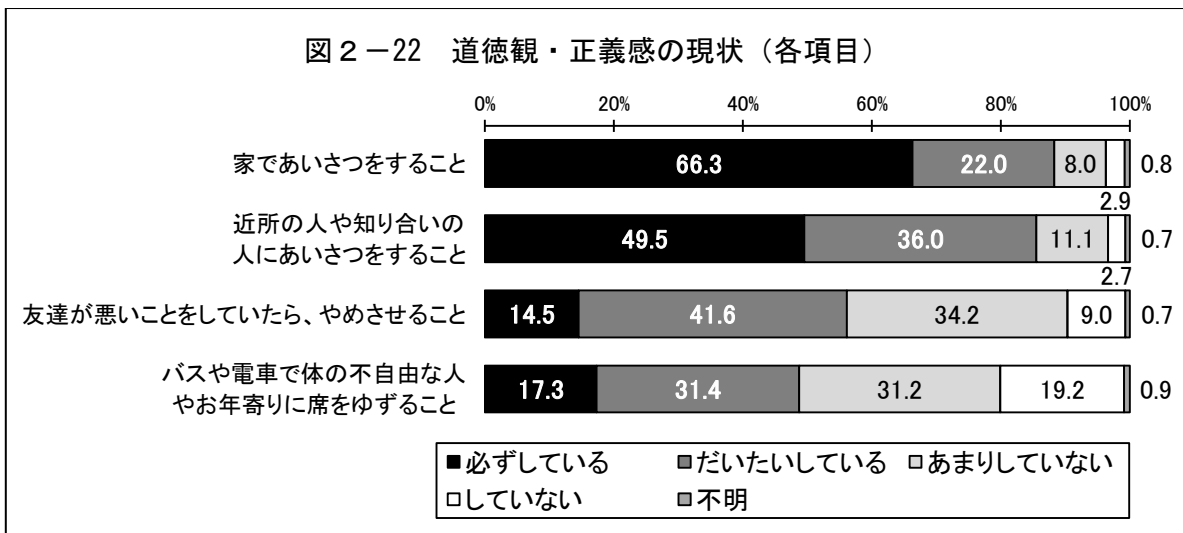
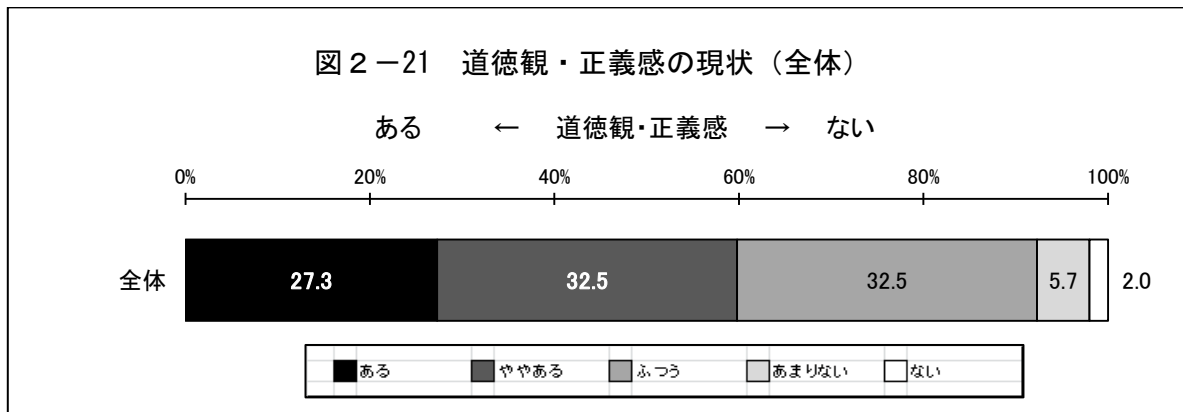
<全体>

道徳観・正義感の現状や推移を把握するため、道徳観・正義感の各項目を得点化し、「ある」から「ない」までの5つに分類して集計を行った。

青少年の道徳観・正義感の全体的な傾向をみると、道徳観・正義感が「ある」「ややある」の割合の合計（59.8%）は6割程度となっている。

道徳観・正義感に関する各項目に対して「必ずしている」「だいたいしている」と答えた者の割合の合計をみると、「家であいさつをすること」（88.3%）が最も高く、次いで「近所の人や知り合いの人にあいさつをすること」（85.5%）となっている。

一方、他の道徳観・正義感に関する項目と比べて低かったものは「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずること」（48.7%）となっている。

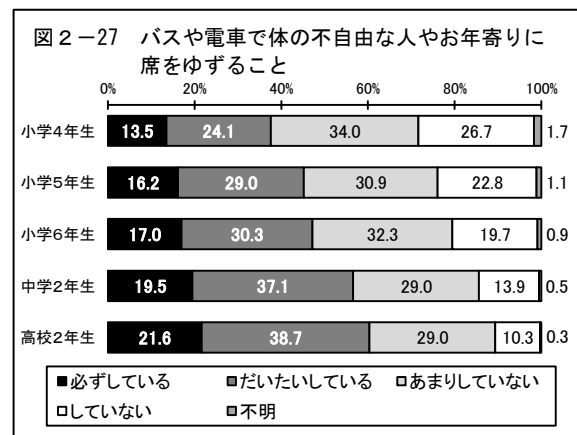
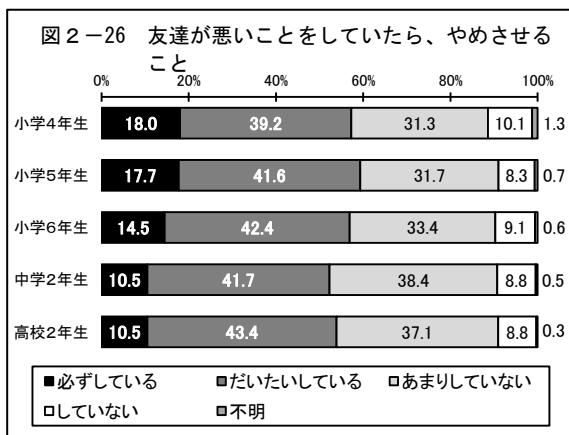
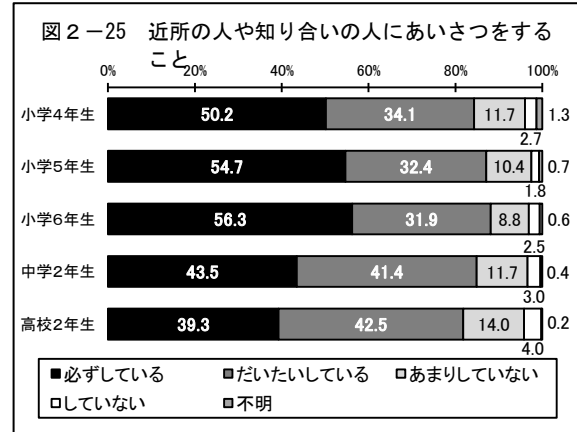
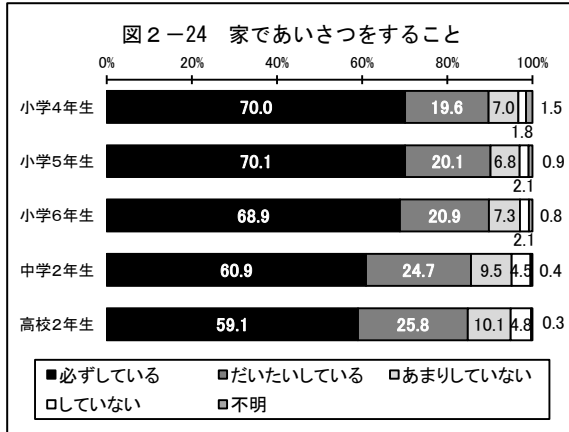
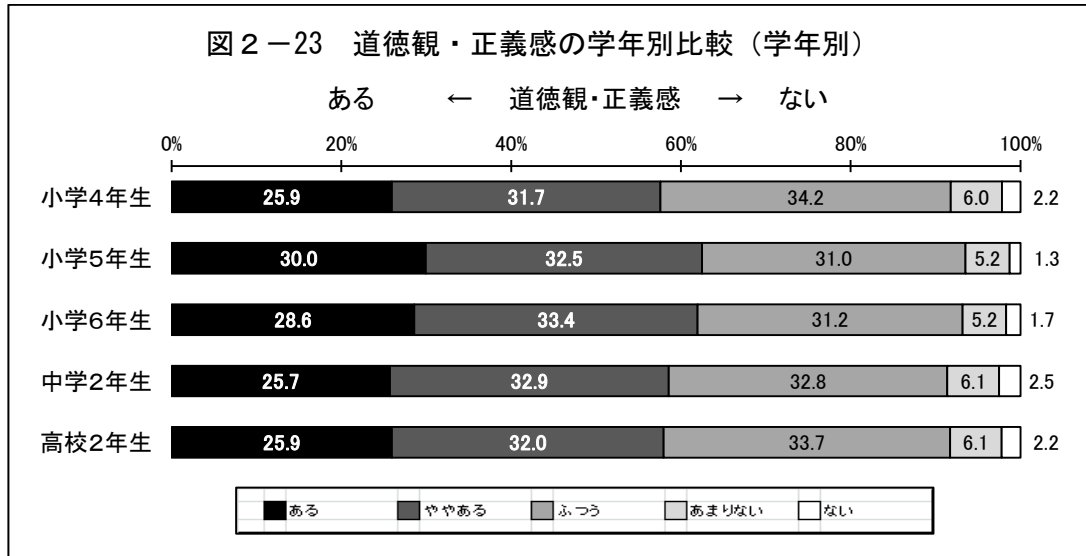


道徳観・正義感：道徳観・正義感に関する4項目を得点化（「必ずしている」を1点、「だいたいしている」を2点、「あまりしていない」を3点、「していない」を4点）し、各質問項目得点の合計を項目数で割ったものを平均点とし、これを「ある」「ややある」「ふつう」「あまりない」「ない」の5段階に分類した。

< 学年別 >

道徳観・正義感全体の現状を学年別にみると、学年が上がるにつれて「ある」「ややある」の割合の合計に大きな増減の傾向はみられないものの、小学5年生と小学6年生は他の学年と比べて若干高くなる傾向がみられる。

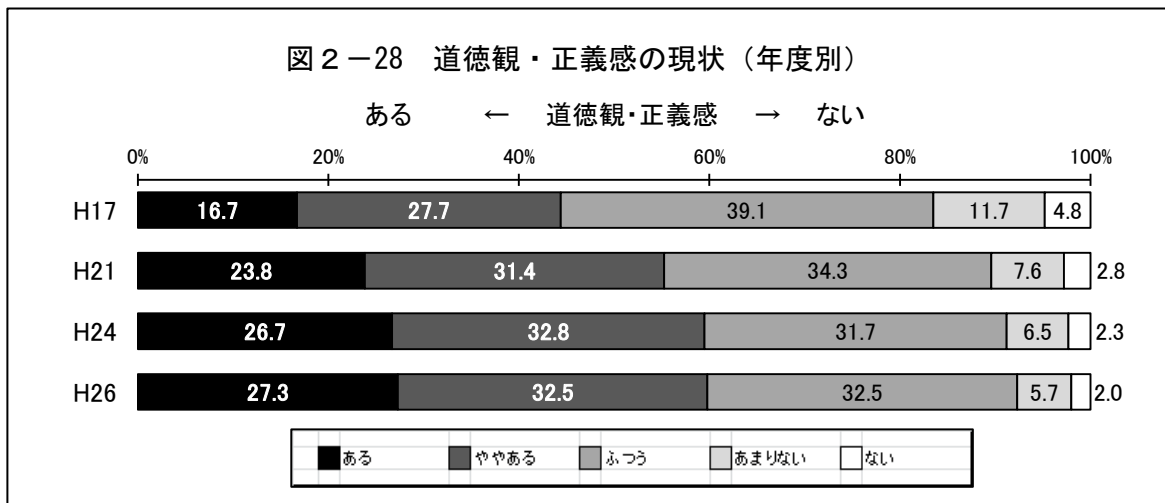
各項目でみると、「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずること」では、「必ずしている」「だいたいしている」と答えた者の割合の合計は学年が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。



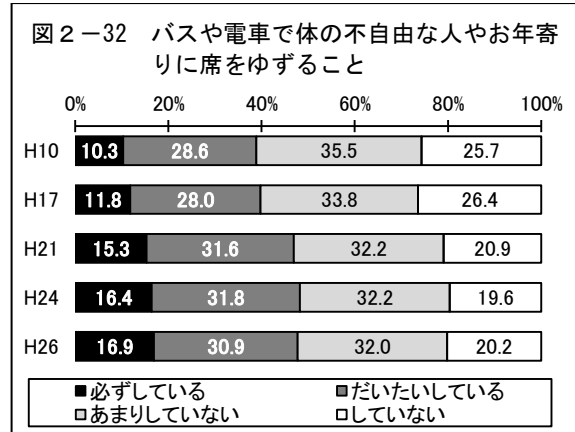
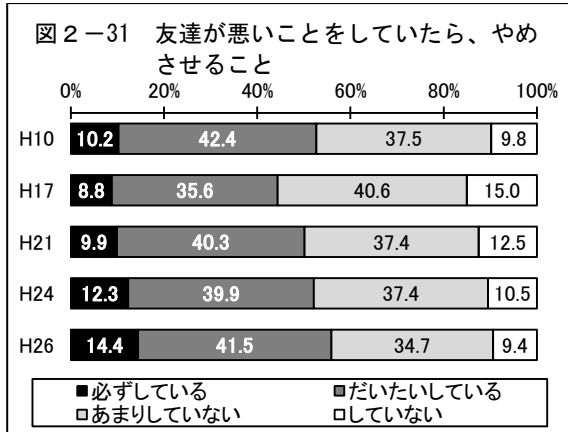
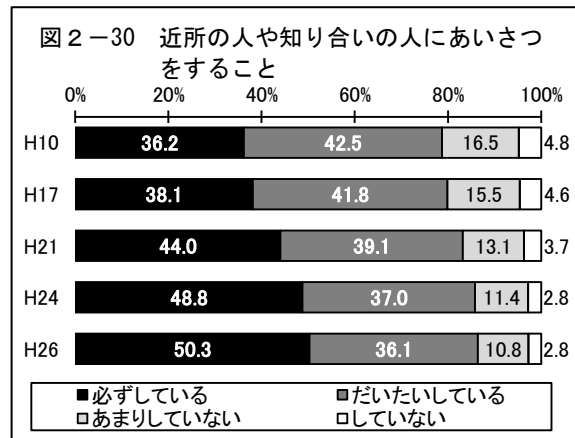
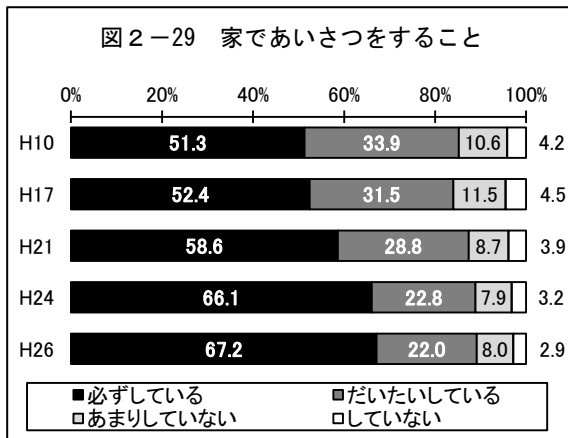
② 道徳観・正義感の推移（小4、小6、中2）

道徳観・正義感全体の推移をみると、平成17年度から平成26年度にかけて「ある」「ややある」の割合の合計（H17:44.4%→H21:55.2%→H24:59.5%→H26:59.8%）は高くなっている。

道徳観・正義感の各項目について「必ずしている」「だいたいしている」と答えた者の割合の合計の推移をみると、「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずること」（H10:38.9%→H17:39.8%→H21:46.9%→H24:48.2%→H26:47.8%）や「近所の人や知り合いの人にあいさつをすること」（H10:78.7%→H17:79.9%→H21:83.1%→H24:85.8%→H26:86.4%）など増加傾向がみられる。

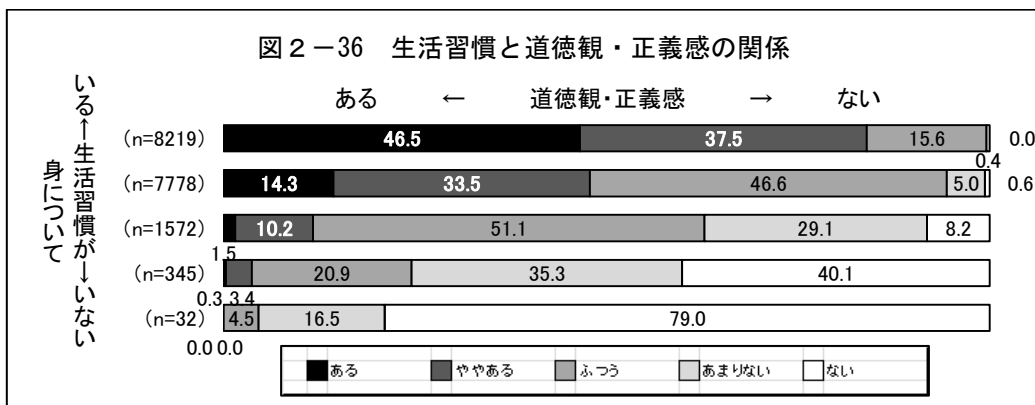
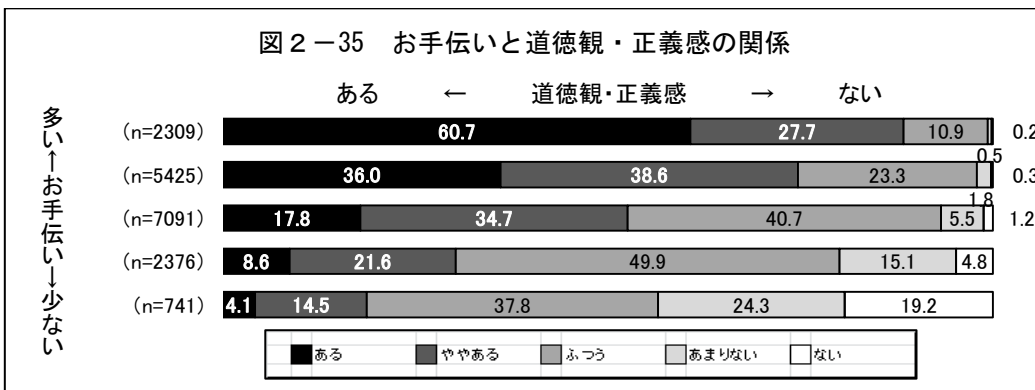
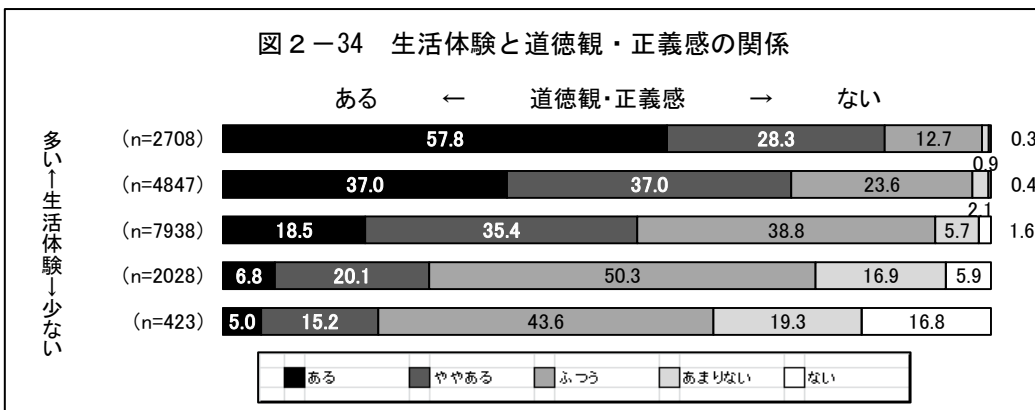
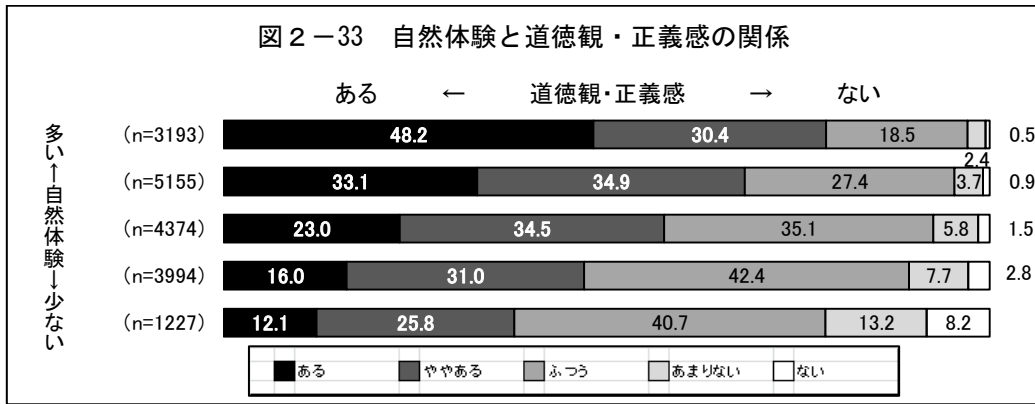


注)「道徳観・正義感の現状（年度別）」については、小4～6、中2、高2を集計対象としている



③ 体験活動と道徳観・正義感の関係 (小4～6、中2、高2)

体験活動と道徳観・正義感の関係では、自然体験や生活体験、お手伝いといった体験が豊富な者や、朝食をとる、あいさつをするといった生活習慣が身についている者ほど道徳観・正義感が高くなる傾向がみられる。

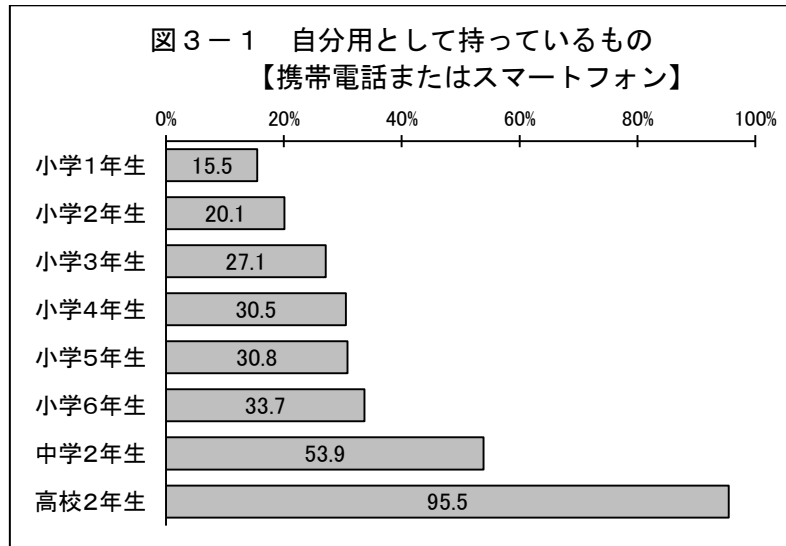


3. 青少年の携帯電話・スマートフォンの使用と体験活動等の関係

(1) 携帯電話・スマートフォンの所有や使用の実態

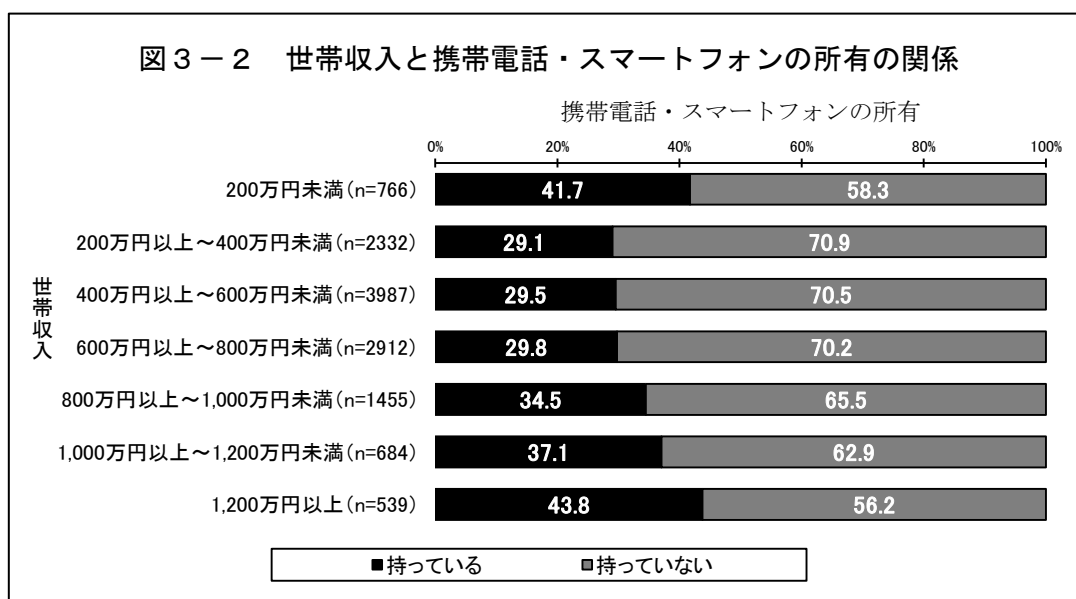
① 携帯電話・スマートフォンの所有（小1～6㊦、中2、高2）

携帯電話・スマートフォンを所有している割合は、学年が上がるにつれて高くなり、中学2年生（53.9%）になると5割以上、高校2年生（95.5%）になると9割以上が所有している。



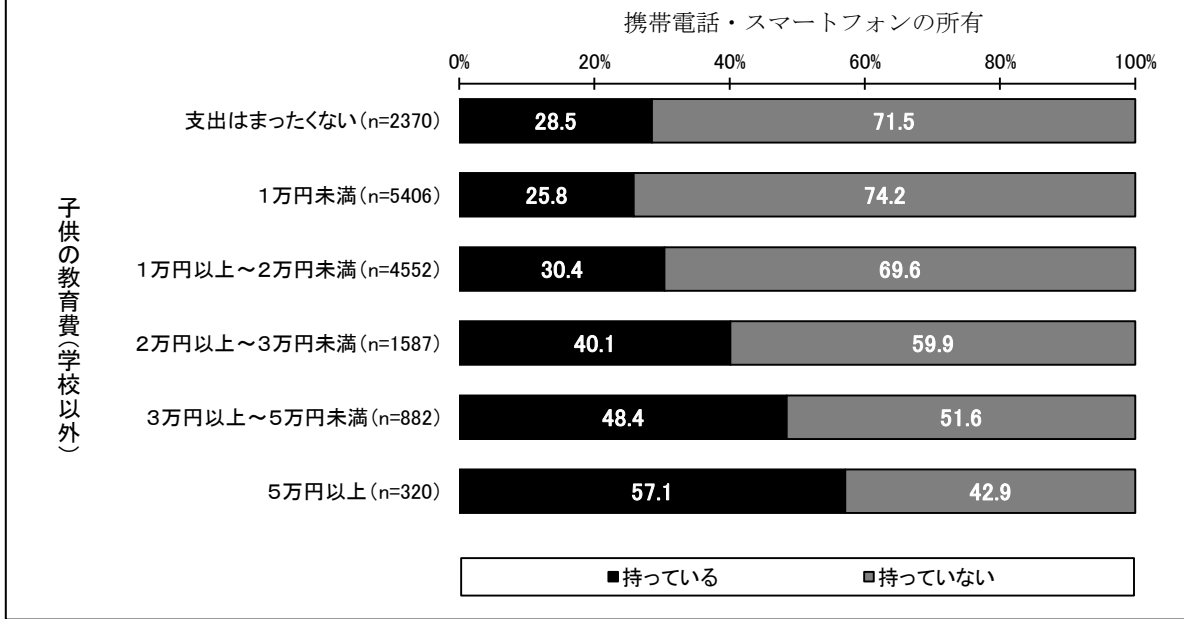
② 世帯収入や子供の教育費（学校以外）と携帯電話・スマートフォンの所有の関係（小1～6㊦）

世帯収入や子供の教育費（学校以外）と携帯電話・スマートフォンの所有については、世帯収入や子供の教育費（学校以外）が多い家庭ほど、その子供が携帯電話・スマートフォンを所有している割合が高くなる傾向がみられる。ただし、世帯収入については、「200万円未満」の家庭も子供が携帯電話・スマートフォンを所有する割合が高くなる傾向がみられる。



子供の教育費（学校以外）：子供の教育費（学校以外）については、学校以外の教育にかける1か月あたりの平均支出について質問している。

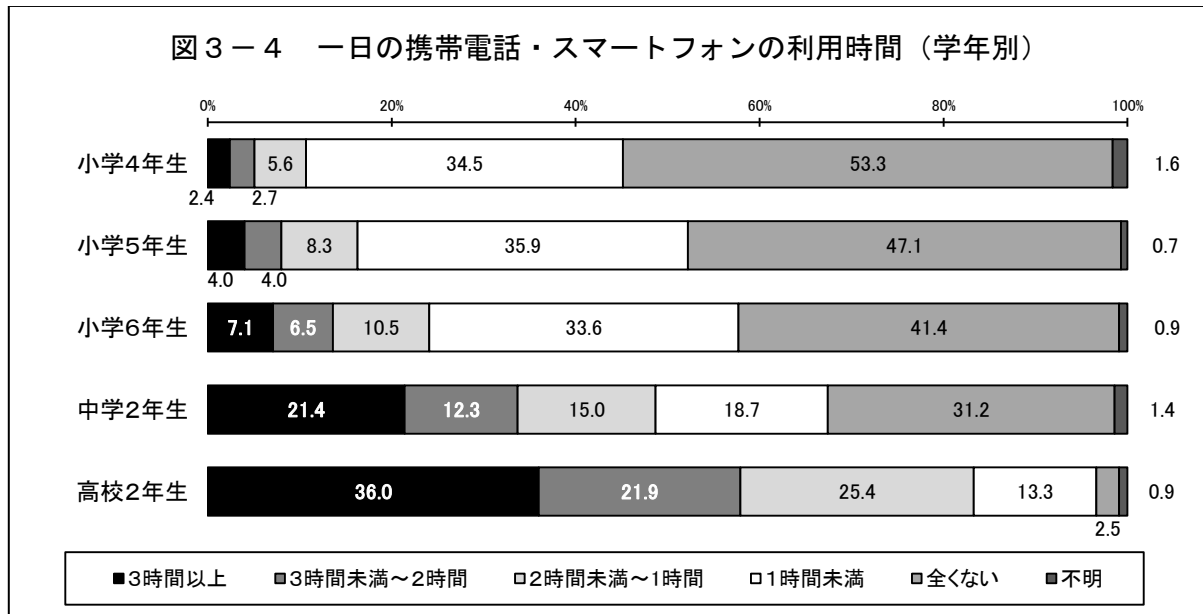
図3-3 子供の教育費（学校以外）と携帯電話・スマートフォンの所有の関係



③ 携帯電話・スマートフォンの利用時間（小4～6、中2、高2）

携帯電話・スマートフォンの利用時間では、学年が上がるにつれて「3時間以上」の割合が高くなり、高校生になると2時間以上利用している割合が5割を超えるようになる。

図3-4 一日の携帯電話・スマートフォンの利用時間（学年別）

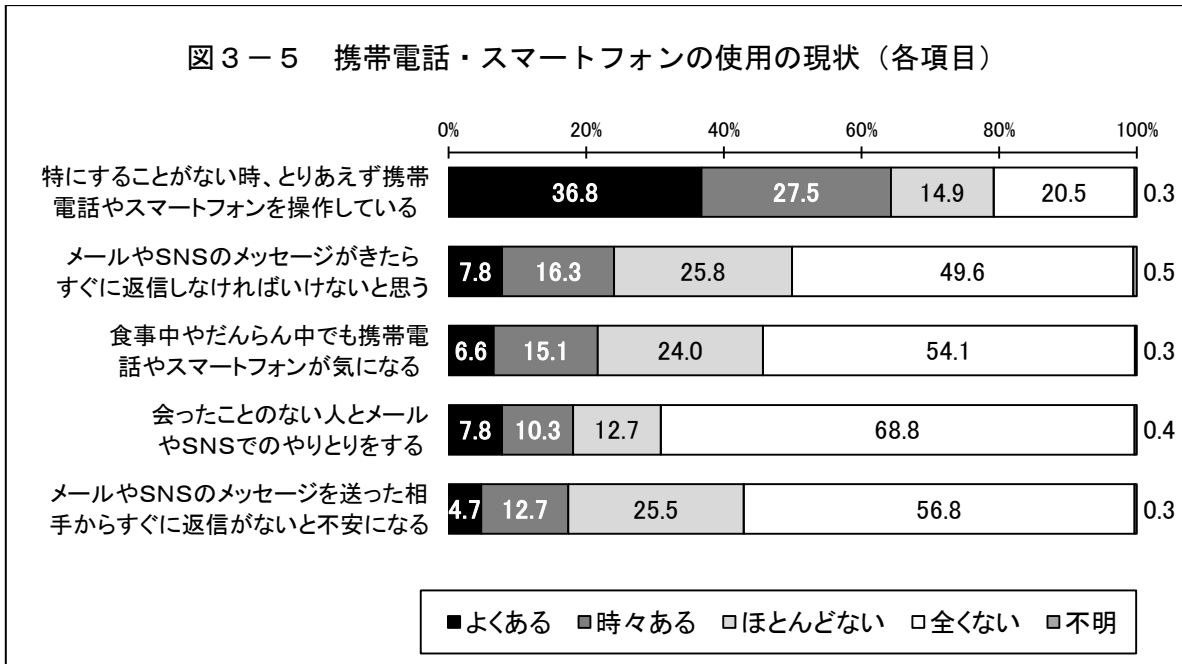


注) 携帯電話・スマートフォンを所有している子供を集計の対象としている。

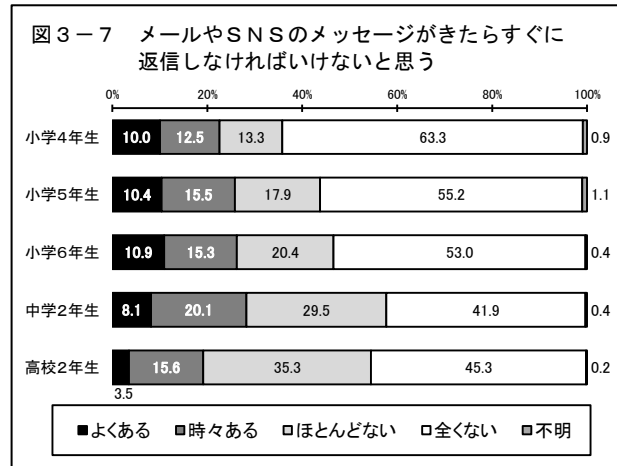
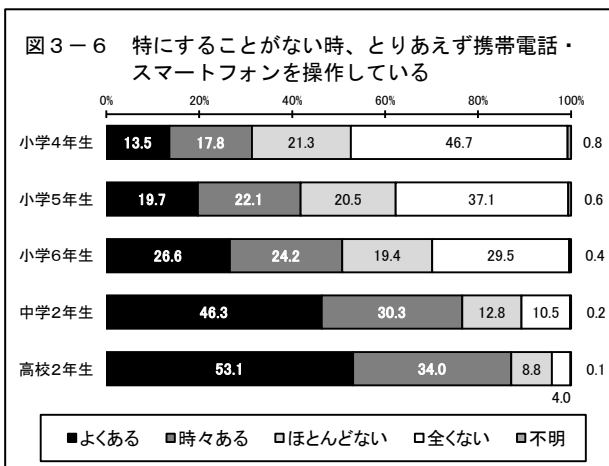
(2) 携帯電話・スマートフォンの使用の現状（小4～6、中2、高2）

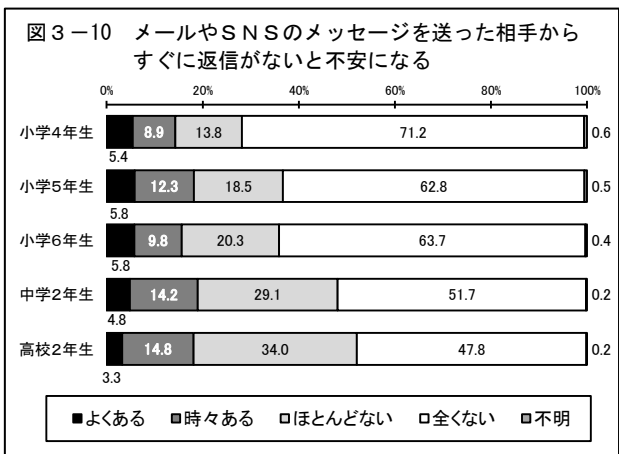
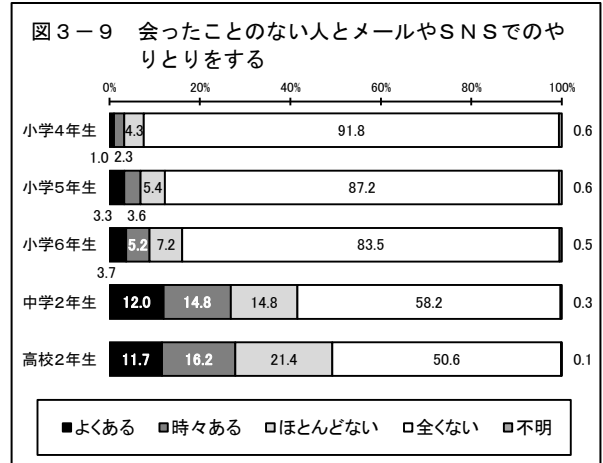
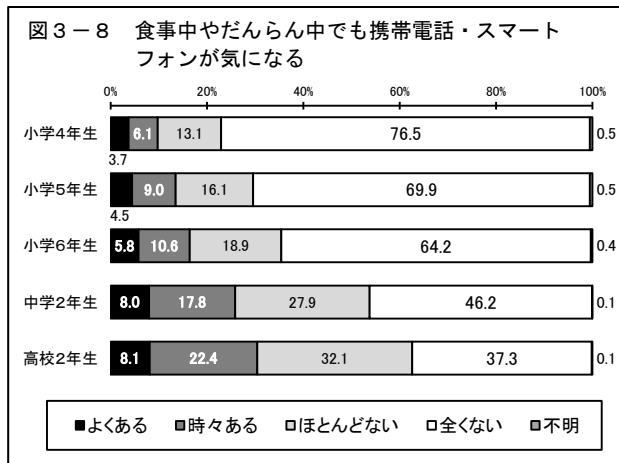
携帯電話・スマートフォンの使用について「よくある」「時々ある」と答えた者の割合の合計をみると、「特にすることがない時、とりあえず携帯電話やスマートフォンを操作している」（64.3%）が最も多く6割以上となっている。

また、携帯電話・スマートフォンの使用の現状を学年別にみると、「特にすることがない時、とりあえず携帯電話やスマートフォンを操作している」や「食事中やだんらん中でも携帯電話・スマートフォンが気になる」、「会ったことのない人とメールやSNSでのやりとりをする」については、学年が上がるにつれて「よくある」「時々ある」と答えた割合の合計が高くなる傾向がみられる。



注) 携帯電話・スマートフォンを所有している子供を集計の対象としている。





注) 携帯電話・スマートフォンを所有している子供を集計の対象としている。

(3) 「携帯電話・スマートフォンの使用」に関する指標の作成

体験活動と携帯電話・スマートフォンの使用の関係を把握するため、携帯電話・スマートフォンの使用に関する指標を作成した。

携帯電話・スマートフォンの使用に関する質問項目については、それぞれ「よくある」「時々ある」「ほとんどない」「まったくない」の4件法で質問している。ここでは、「よくある」を1点、「時々ある」を2点、「ほとんどない」を3点、「まったくない」を4点として、5項目を対象とした因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行なった。

因子分析の結果、固有値1以上の因子が2つ抽出された。各因子を代表する項目を考慮し、第1因子を「携帯電話・スマートフォンに対する熱中度（以下「スマホ熱中度」という。）」、第2因子を「携帯電話・スマートフォンに対する依存度（以下「スマホ依存度」という。）」と名付けた。ただし、第2因子として抽出された「会ったことのない人とメールやSNSでのやりとりをする」は因子負荷量が0.5に満たなかったことから除外した。

表3-1 携帯電話・スマートフォンの使用に関する因子構造

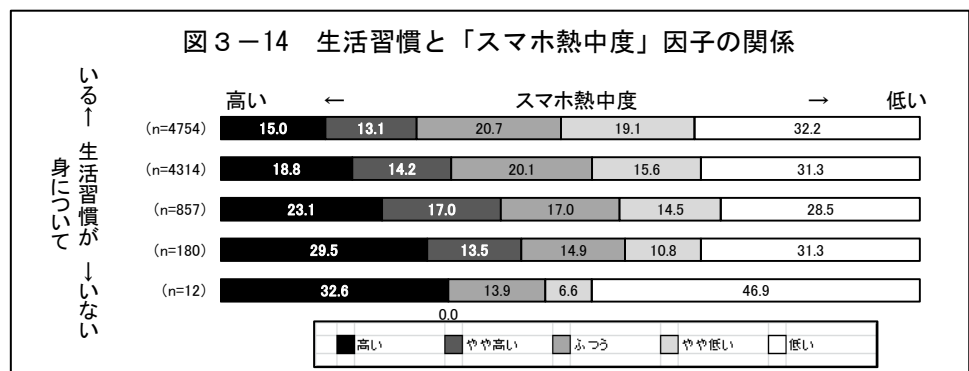
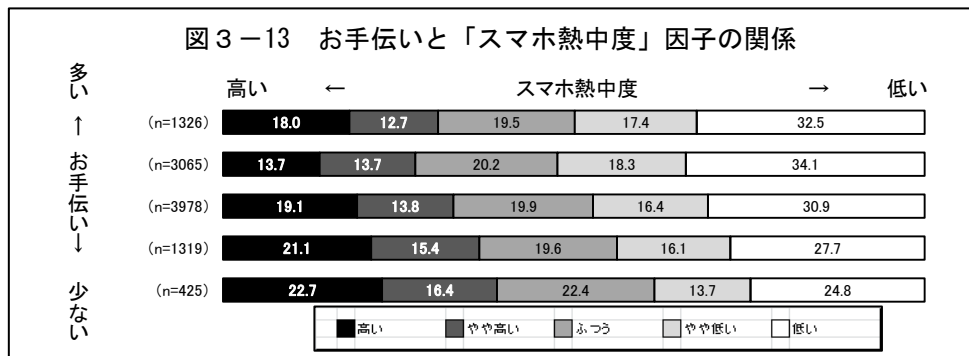
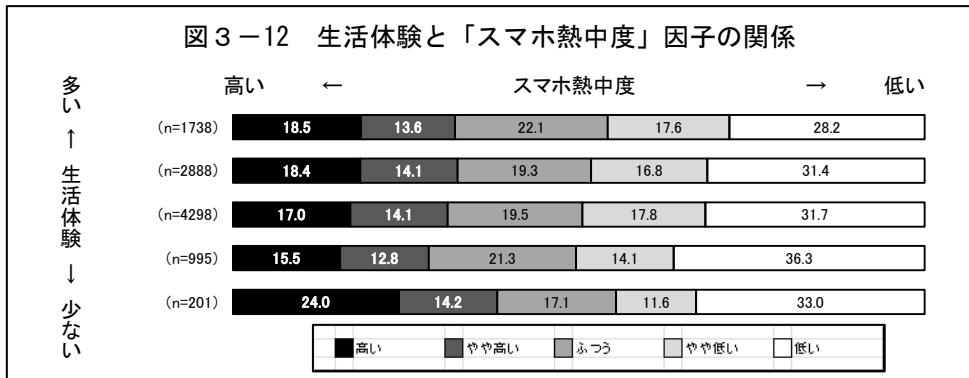
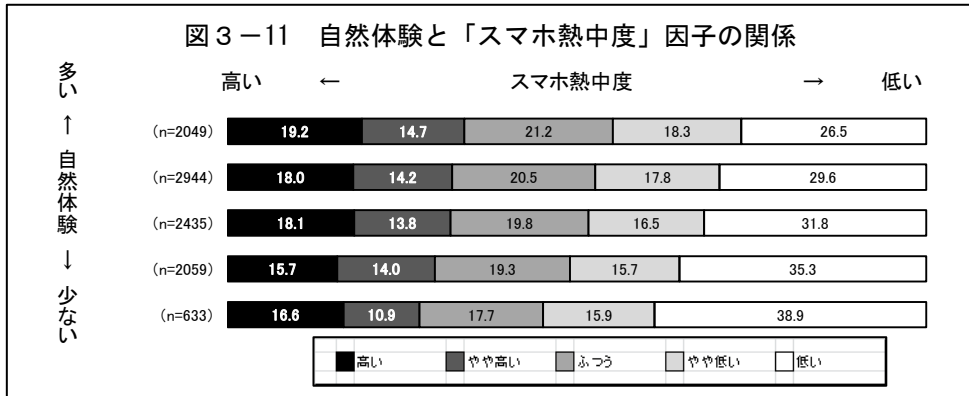
	因子Ⅰ スマホ熱中度	因子Ⅱ スマホ依存度
特にすることがない時、とりあえず携帯電話やスマートフォンを操作している	.773	-.075
食事中やだんらん中でも携帯電話やスマートフォンが気になる	.710	.060
会ったことのない人とメールやSNSでのやりとりをする	.454	.080
メールやSNSのメッセージを送った相手からすぐに返信がないと不安になる	.003	.816
メールやSNSのメッセージがきたらすぐに返信しなければいけないと思う	.017	.733
固有値	2.449	1.020

注) 携帯電話・スマートフォンを所有している子供を分析の対象としている。

(4) 体験活動等と携帯電話・スマートフォンの使用の関係

① 体験活動等と「スマホ熱中度」の関係 (小4～6、中2、高2)

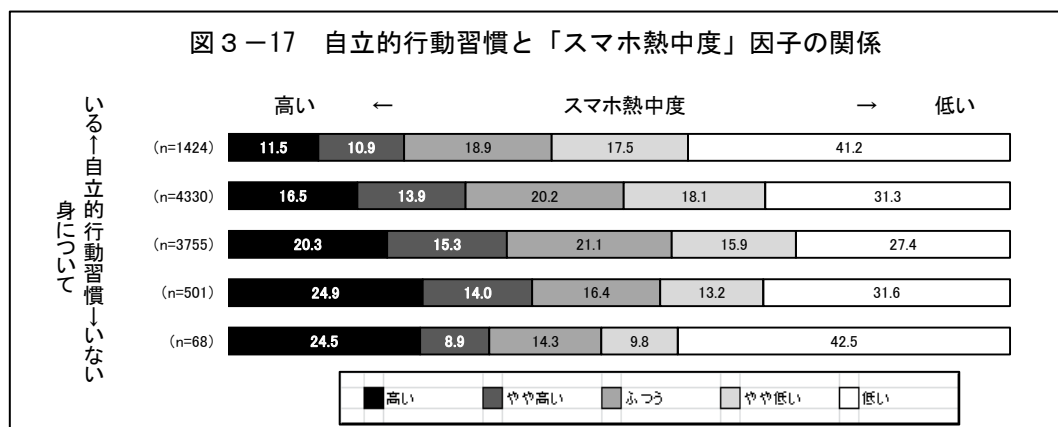
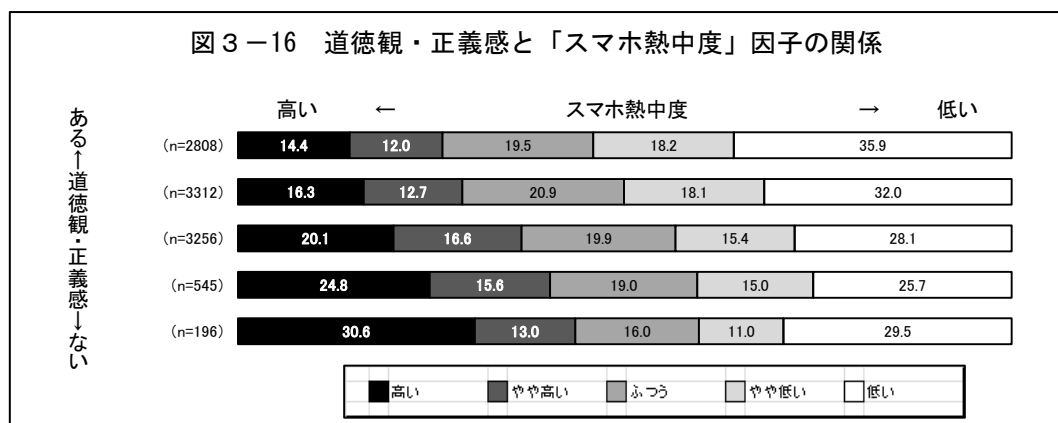
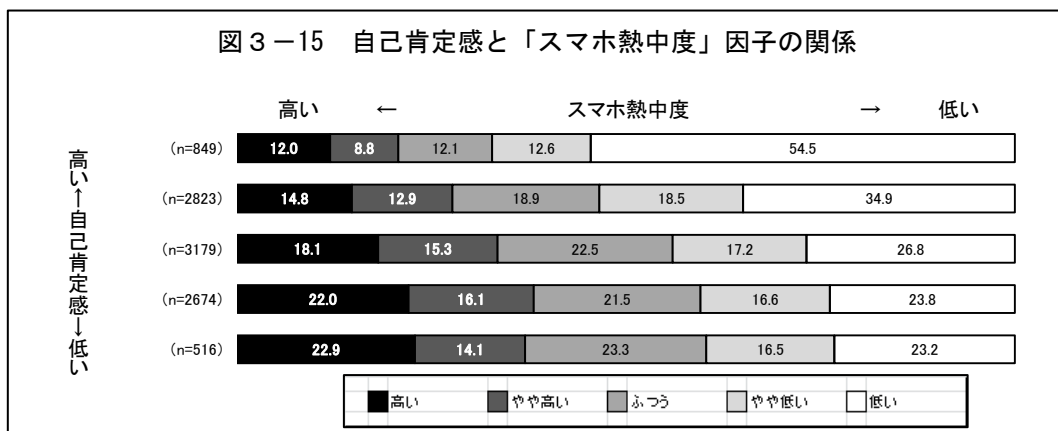
体験活動や生活習慣と「スマホ熱中度」の関係では、自然体験が多い者ほど「スマホ熱中度」が高くなる傾向がみられる一方で、お手伝いを多くしている者や生活習慣が身についている者ほど「スマホ熱中度」が低くなる傾向がみられる。



注) 携帯電話・スマートフォンを所有している子供を集計の対象としている。

② 意識等と「スマホ熱中度」の関係（小4～6、中2、高2）

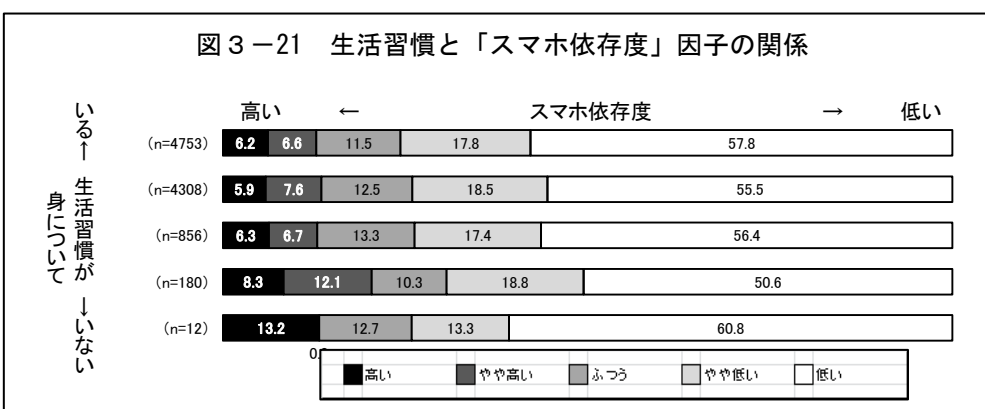
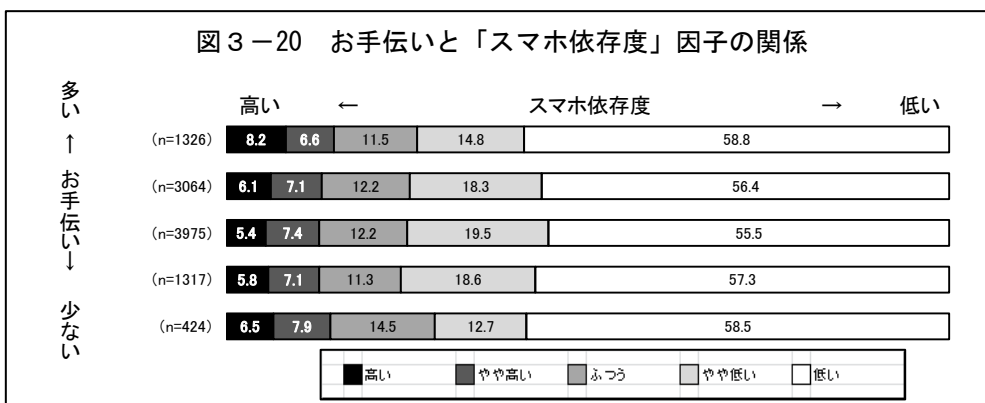
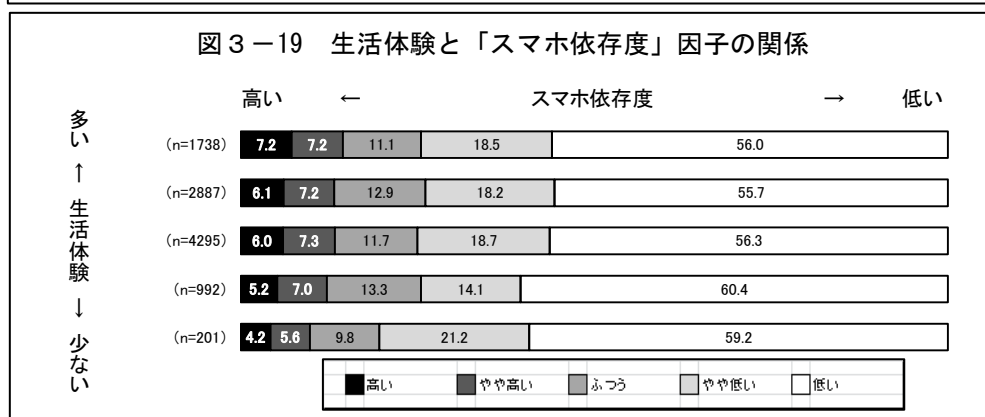
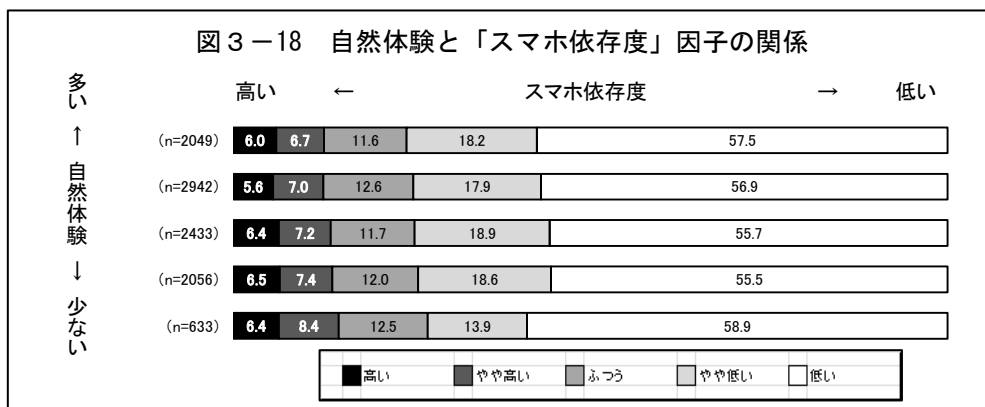
自己肯定感や道徳観・正義感等と「スマホ熱中度」では、自己肯定感や道徳観・正義感が高い者ほど「スマホ熱中度」が低くなる傾向がみられる。



注) 携帯電話・スマートフォンを所有している子供を集計の対象としている。

③ 体験活動等と「スマホ依存度」の関係（小4～6、中2、高2）

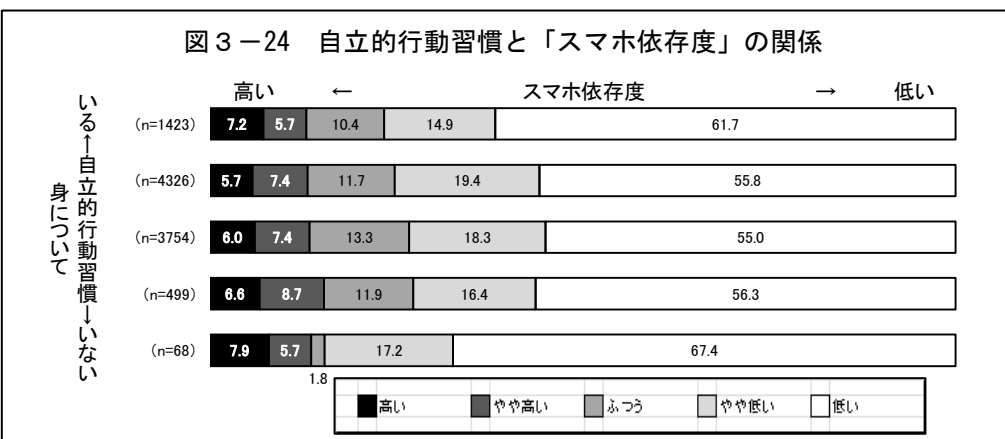
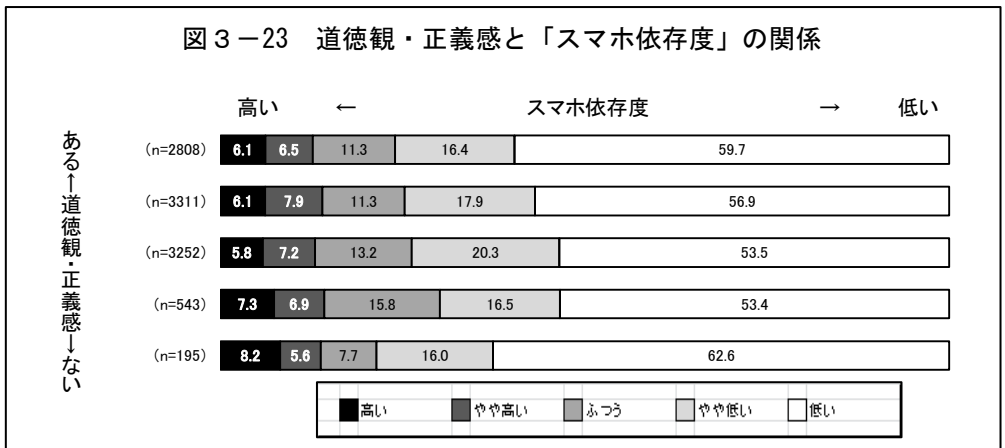
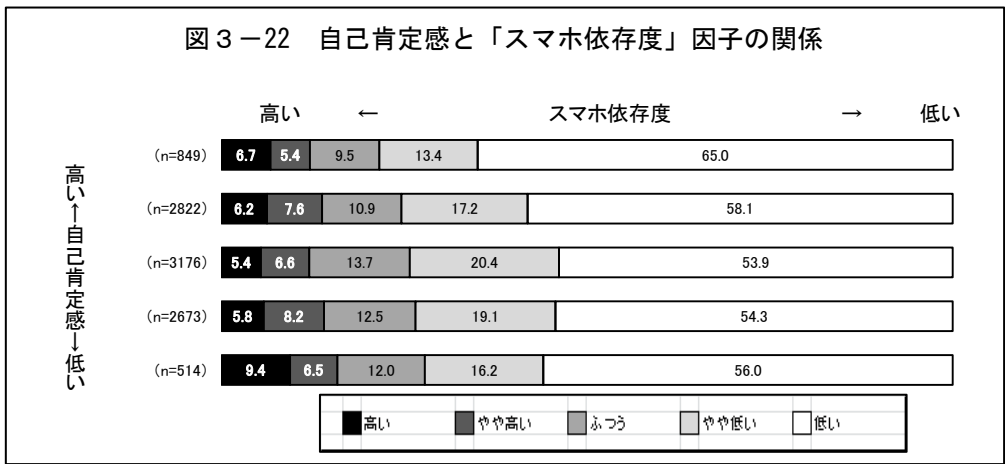
体験活動等と「スマホ依存度」の関係では、自然体験や生活体験、お手伝い等の多寡と「スマホ依存度」にはほとんど関係がみられない。



注) 携帯電話・スマートフォンを所有している子供を集計の対象としている。

④ 意識等と「スマホ依存度」の関係（小4～6、中2、高2）

意識等と「スマホ依存度」の関係では、自己肯定感や道徳観・正義感等の多寡と「スマホ依存度」にはほとんど関係が見られない。



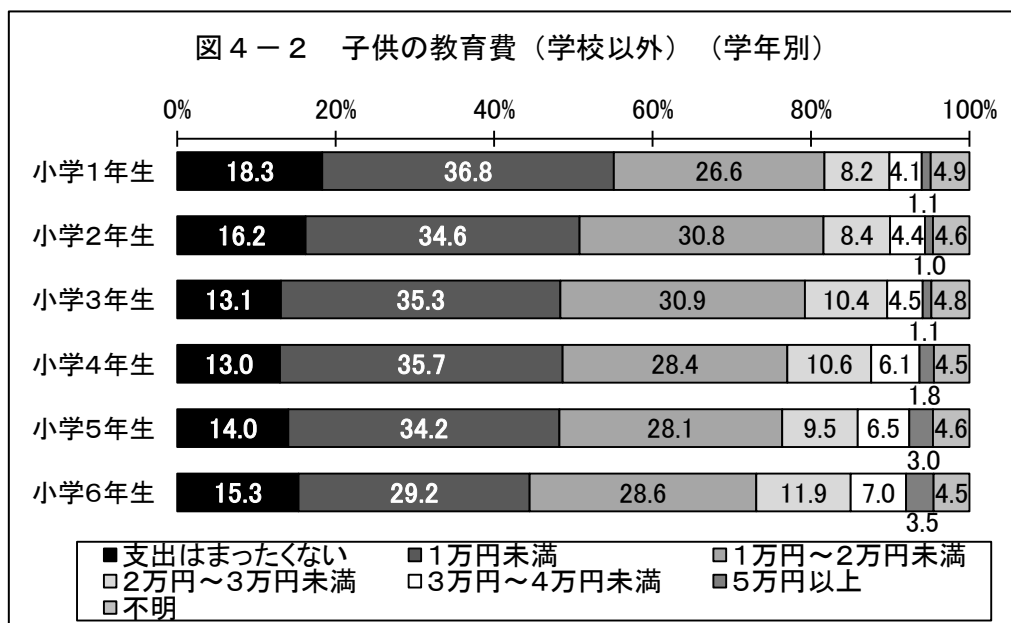
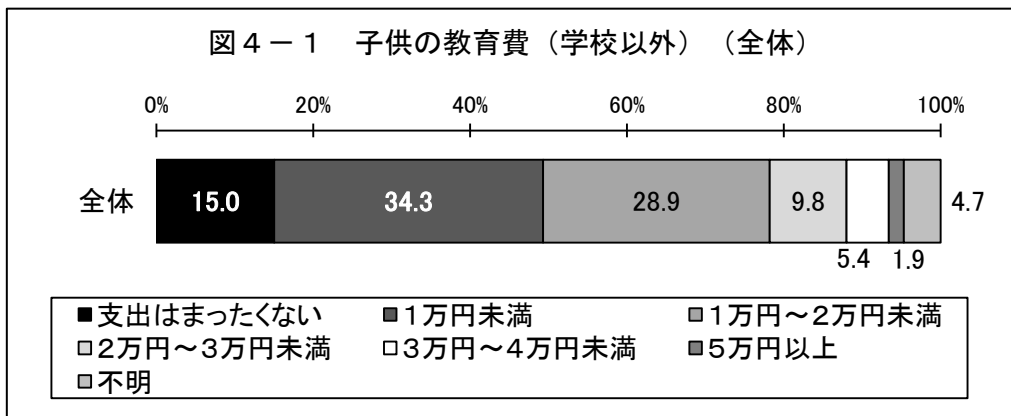
注) 携帯電話・スマートフォンを所有している子供を集計の対象としている。

4. 子供（小学生）の教育費（学校以外）と体験活動等の関係

(1) 子供の教育費（学校以外）の現状（小1～6㉔）

子供の教育費（学校以外）全体の現状は、「1万円未満」（34.3%）と回答した割合が最も高くなっており、次いで「1万円～2万円未満」（28.9%）、「支出はまったくくない」（15.0%）となっている。

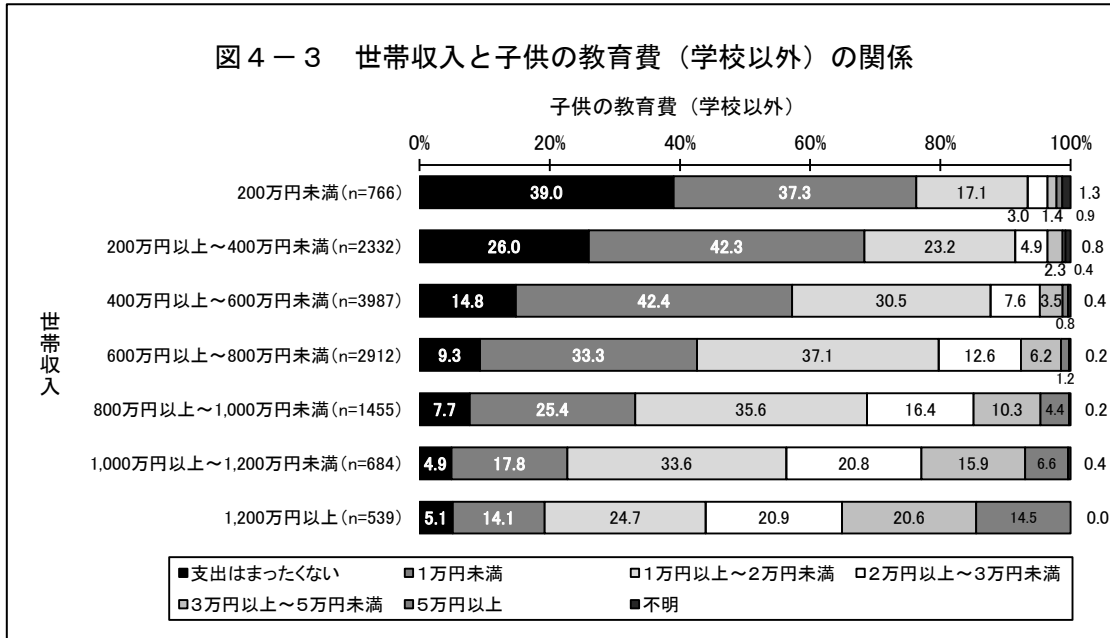
子供の教育費（学校以外）を学年別に比較すると、すべての学年で「1万円未満」と回答した割合が最も高いが、学年が上がるにつれて子供の教育費は高くなる傾向がみられる。



(2) 世帯収入と子供の教育費（学校以外）との関係（小1～6㊦）

世帯収入と子供の教育費（学校以外）との関係では、世帯収入が多い家庭ほど子供の教育費（学校以外）が高くなる傾向がみられる。

また、世帯収入が600万円未満の家庭では子供の教育費（学校以外）が「1万円未満」の割合が高いのに対し、世帯収入が600万円以上の家庭では子供の教育費（学校以外）が「1万円以上～2万円未満」の割合が高くなる。



(3) 子供の教育費（学校以外）と体験活動等の関係（小4～6、小4～6㊦）

① 子供の教育費（学校以外）と体験活動の関係

子供の教育費（学校以外）と体験活動の関係では、若干ではあるが、子供の教育費（学校以外）が高い家庭ほど子供が自然体験をしている割合が高くなる傾向がみられるが、生活体験やお手伝いとはほとんど関係がみられない。

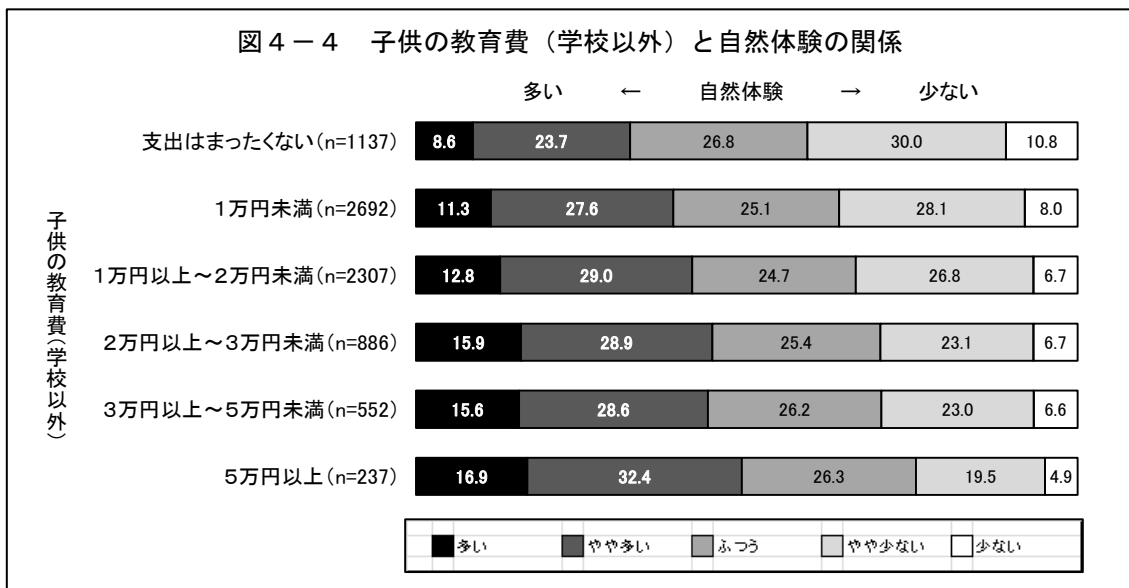


図4-5 子供の教育費（学校以外）と生活体験の関係

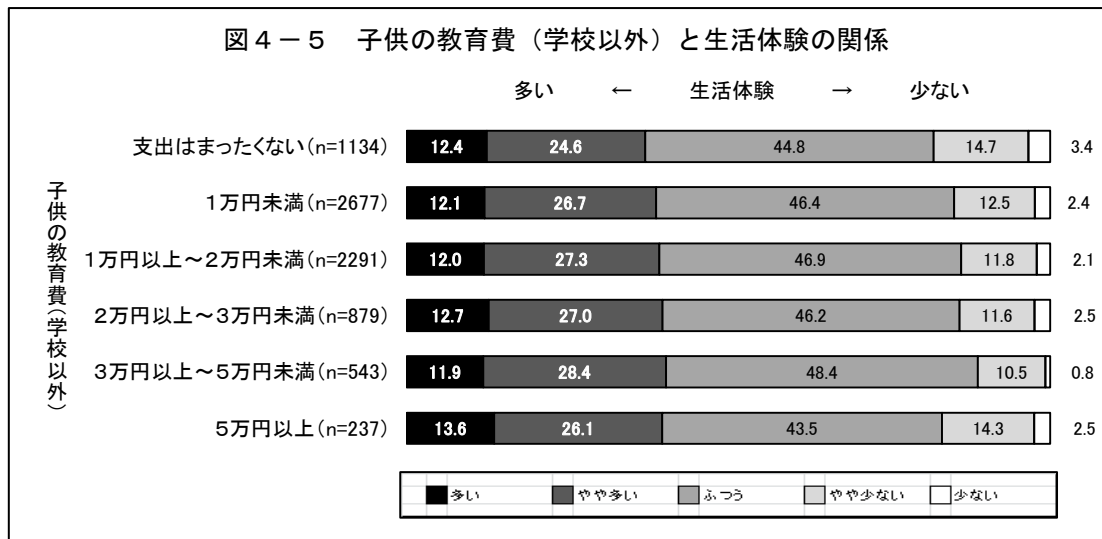
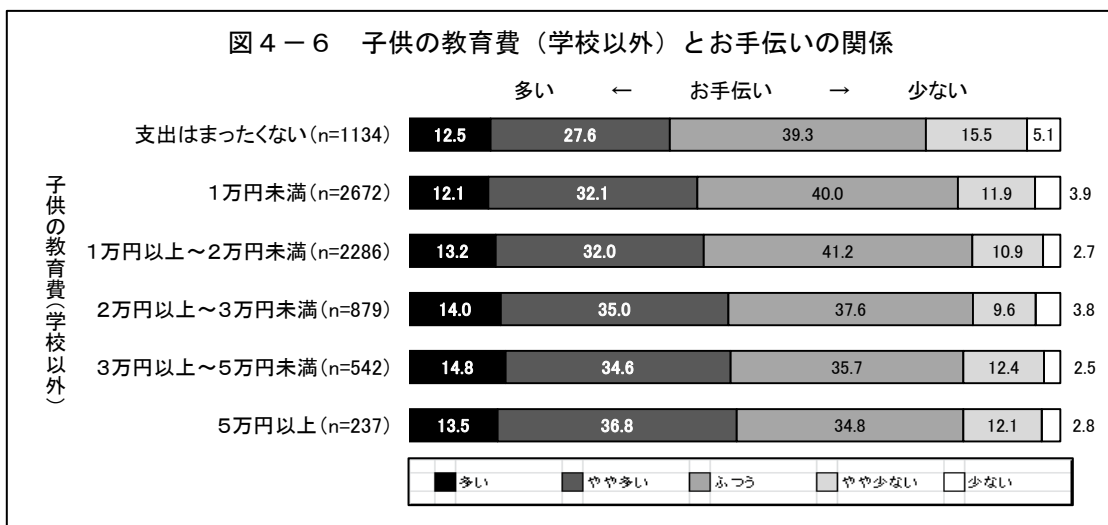


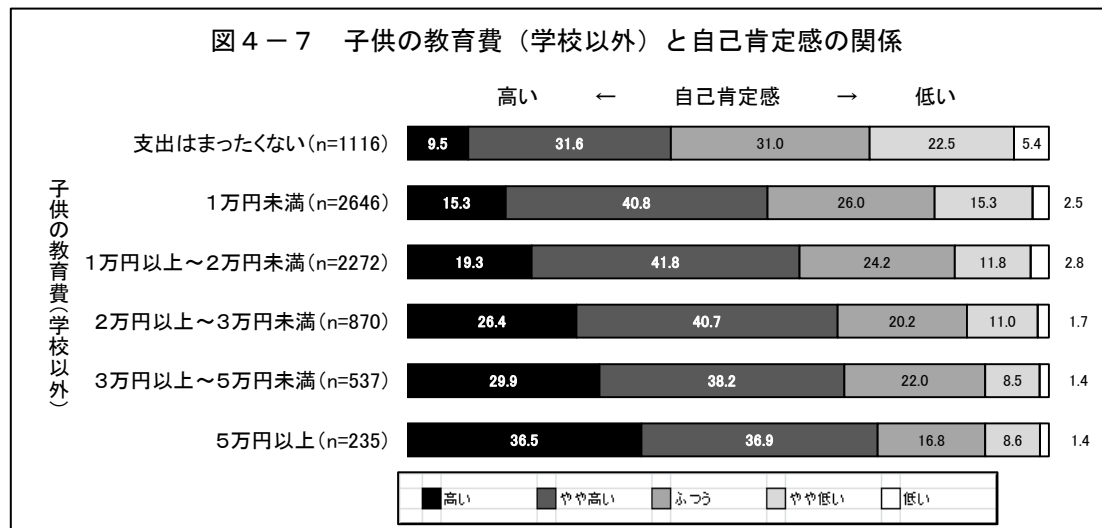
図4-6 子供の教育費（学校以外）とお手伝いの関係

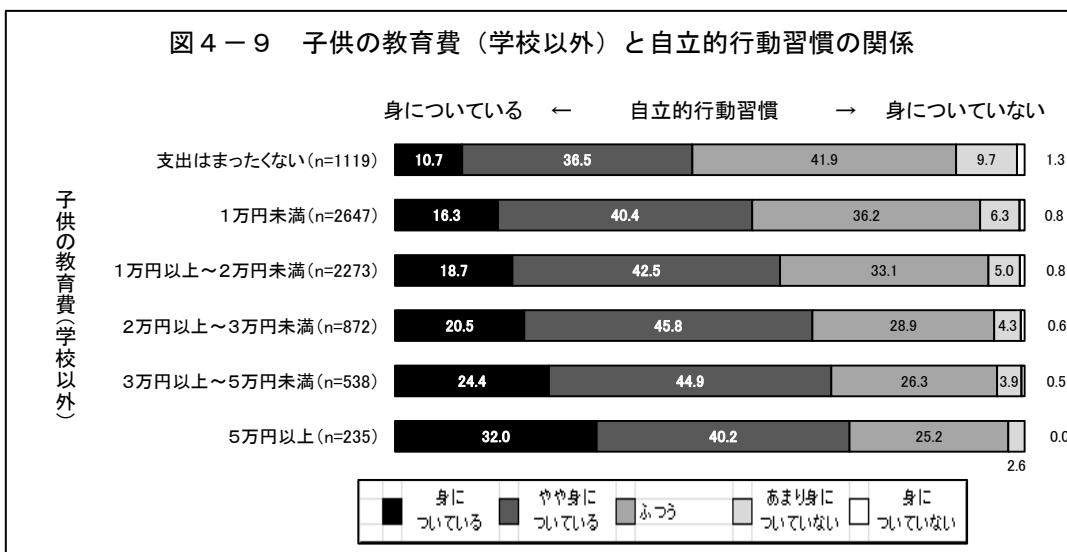
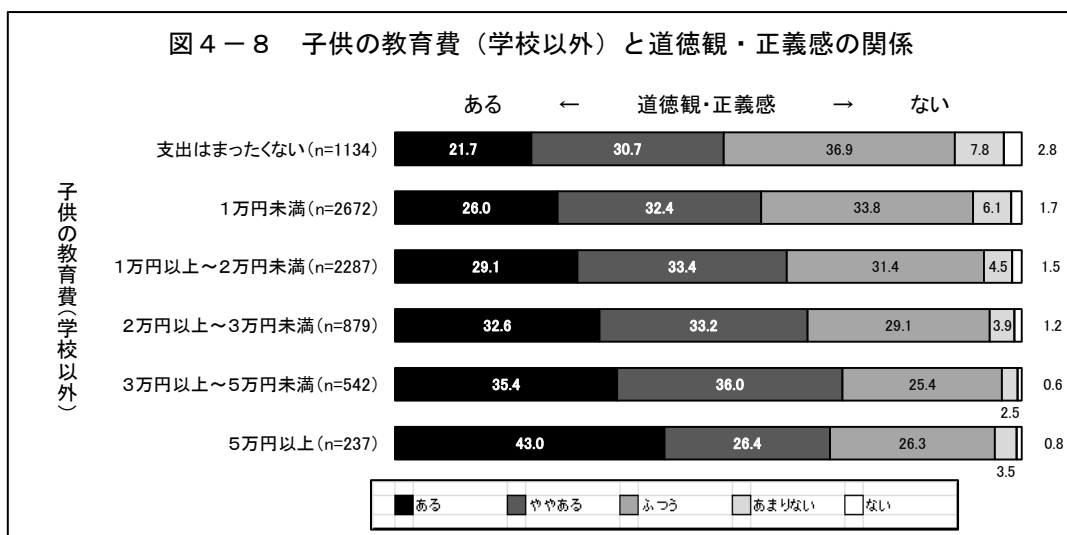


② 子供の教育費（学校以外）と意識等の関係（小4～6、小4～6㊦）

子供の教育費（学校以外）と意識等の関係では、子供の教育費（学校以外）が高い家庭ほど、子供の自己肯定感や道徳観・正義感等の意識が高くなる傾向がみられる。

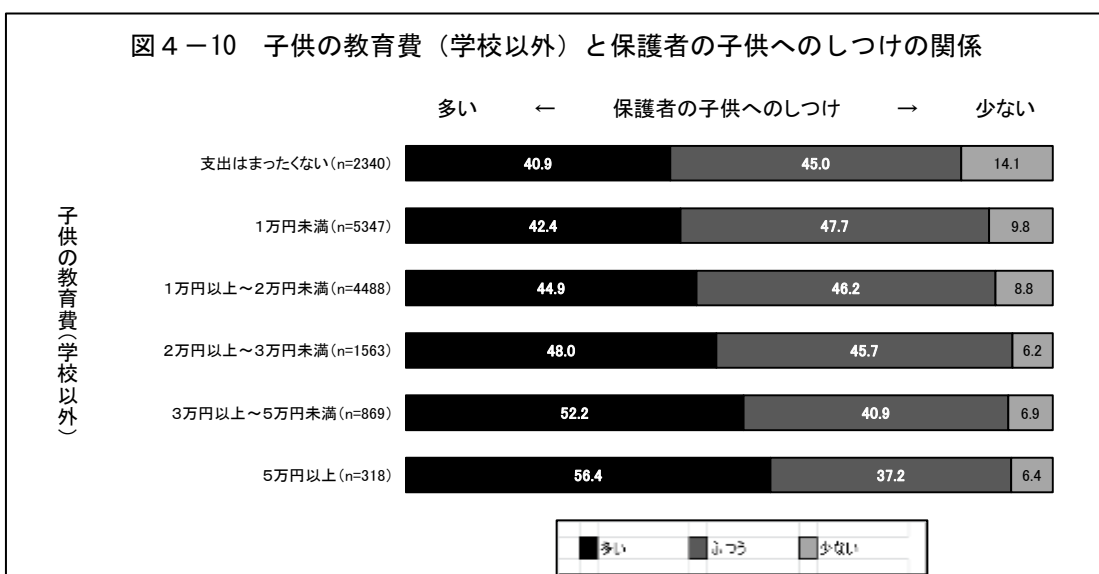
図4-7 子供の教育費（学校以外）と自己肯定感の関係





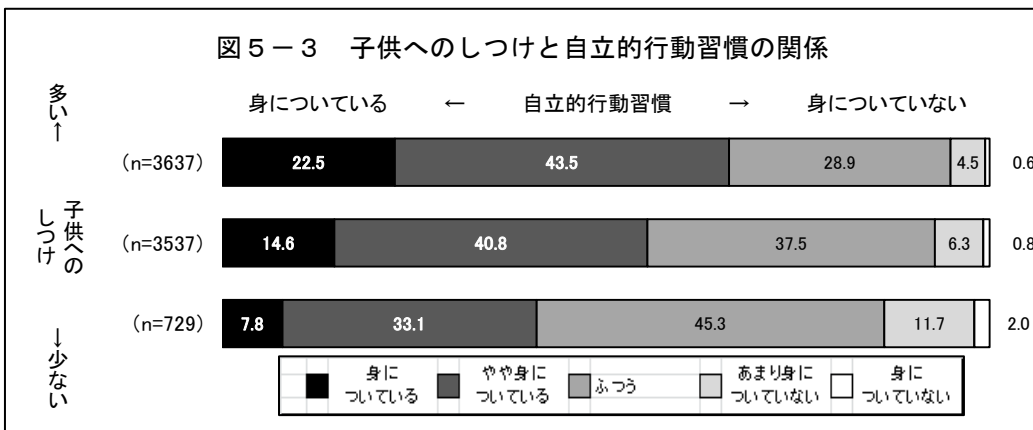
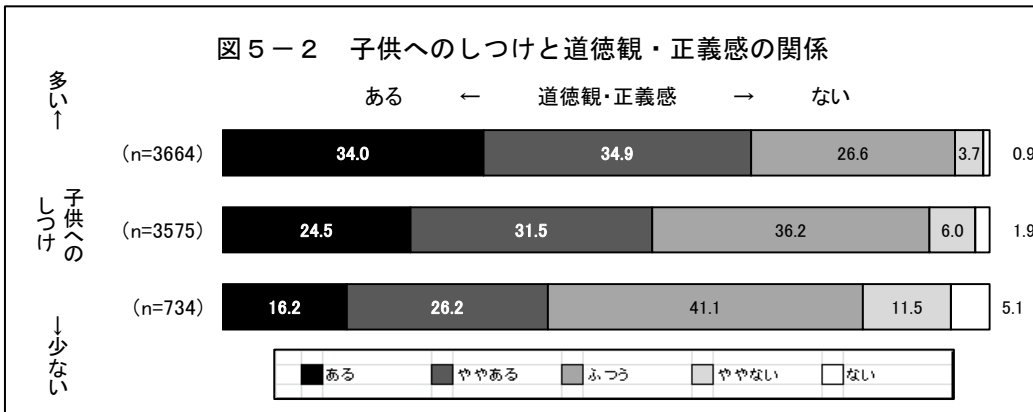
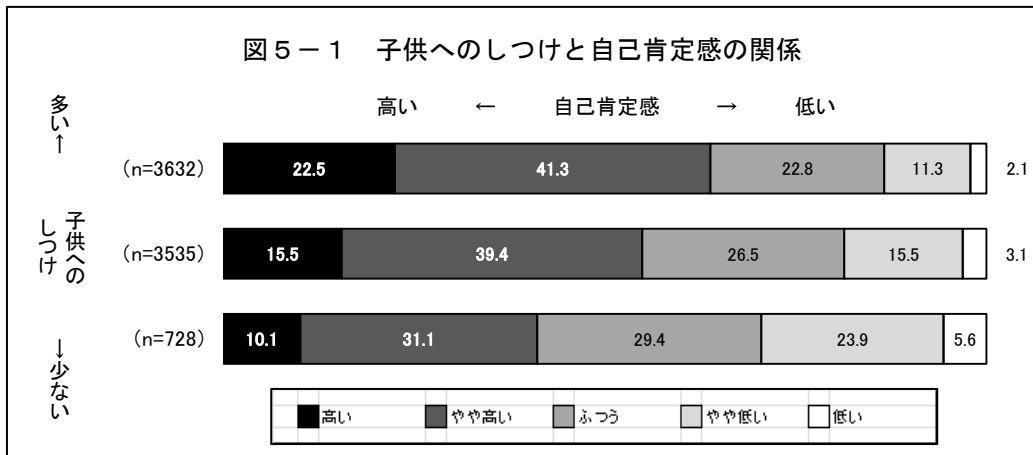
(4) 子供の教育費（学校以外）と子供へのしつけの関係（小4～6㊦）

子供の教育費（学校以外）と子供へのしつけの関係では、子供の教育費が高い家庭ほど、子供へのしつけが多くなる傾向がみられる。



5. 子供へのしつけと青少年の意識等との関係（小4～6、小4～6㊦）

子供へのしつけと青少年の意識等との関係では、子供へのしつけが多い家庭ほど、子供の自己肯定感や道徳観・正義感等が高くなる傾向がみられる。



子供へのしつけ：子供へのしつけに関する21項目を得点化（「熱心にしてきた」を1点、「少ししてきた」を2点、「あまりしてこなかった」を3点、「全くしてこなかった」を4点）し、各質問項目得点の合計を項目数で割ったものを平均点とし、これを「多い」「ふつう」「少ない」の3段階に分類した。

青少年の体験活動等に関する区分

<p>自然体験に関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと ・海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと ・大きな木に登ったこと ・ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと ・太陽が昇るところや沈むところを見たこと ・夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと ・野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと ・海や川で泳いだこと ・キャンプをしたこと 	<p>生活体験に関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと ・タオルやぞうきんなどを絞ったこと ・道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと ・弱いものいじめやケンカをやめさせたり、注意したこと ・赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと ・小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと
<p>お手伝いに関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物のお手伝いをする ・新聞や郵便物をとってくる ・靴などをそろえたり磨いたりする ・食器をそろえたり片付けたりする ・家の中のお掃除や整頓を手伝う ・ゴミ袋を出したり捨てる ・お風呂洗いをしたり窓ふきを手伝う ・お料理の手伝いをする 	<p>生活習慣に関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝、顔を洗ったり、歯を磨いたりする ・朝、食事をとる ・自分のふとんの上げ下ろしやベッドを整頓する ・朝、人に起こされなくて自分で起きる ・家であいさつをする ・近所の人や知り合いにあいさつをする

※ 「自然体験」及び「生活体験」の分類については、区分を構成する項目に対する回答を3～1点に得点化し、各質問項目得点の合計を項目数で割ったものを区分の平均点として算出した。算出した平均点に従って、「1点以上1.4点未満」、「1.4点以上1.8点未満」、「1.8点以上2.2点未満」、「2.2点以上2.6点未満」、「2.6点以上3点以下」の5段階に分類した。

※ 「お手伝い」及び「生活習慣」の分類については、区分を構成する項目に対する回答を4～1点に得点化し、各質問項目得点の合計を項目数で割ったものを区分の平均点として算出した。算出した平均点に従って、「1点以上1.6点未満」、「1.6点以上2.2点未満」、「2.2点以上2.8点未満」、「2.8点以上3.4点未満」、「3.4点以上4点以下」の5段階に分類した。

青少年の意識等に関する区分

<p>自己肯定感に関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の友だちが多い方だ ・学校以外の友だちが多い方だ ・勉強は得意な方だ ・今の自分が好きだ ・自分には、自分らしさがある ・体力には自信がある 	<p>道徳観・正義感に関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家であいさつをすること ・近所の人や知り合いの人にあいさつをすること ・バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずること ・友達が悪いことをしていたら、やめさせること
<p>自立的行動習慣に関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思ったことをはっきりと言う ・周りの人に迷惑をかけずに行動する ・自分でできることは自分でする ・わからないことは、そのままにしないで調べる ・先のことを考えて、自分の計画を立てる ・困った時でも前向きに取り組む ・人から言われなくても、自分から進んでやる 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰とでも協力してグループ活動をする ・人の話をきちんと聞く ・困っている人がいたときに手助けする ・相手の立場になって考える ・ルールを守って行動する ・国や地域の政治や選挙について関心がある ・新聞やテレビ、インターネットで、その日のニュースを読んだり見たりする

※ 上記3区分の分類については、区分を構成する項目に対する回答を4～1点に得点化し、各質問項目得点の合計を項目数で割ったものを区分の平均点として算出した。算出した平均点に従って、「1点以上1.6点未満」、「1.6点以上2.2点未満」、「2.2点以上2.8点未満」、「2.8点以上3.4点未満」、「3.4点以上4点以下」の5段階に分類した。

保護者の子供へのしつけに関する項目

<p>保護者の子供へのしつけに関する質問項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜ふかしをしないで早く寝ること ・毎朝、起きなければならない時間にきちんと起きること ・毎朝、きちんと朝食を食べること ・家事の手伝いをすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられたお小遣いの中で計画的にお金を使うこと ・家であいさつをすること ・近所の人や知り合いの人にあいさつをすること
--	--

等 21 項目

※ 「保護者の子供へのしつけ」については、これを構成する項目に対する回答を4～1点に得点化し、各質問項目得点の合計を項目数で割ったものを平均点として算出した。算出した平均点に従って、「1点以上1.6点未満」、「1.6点以上2.2点未満」、「2.2点以上4点以下」の3段階に分類した。

【参考】経年比較を行った調査

実施年度 (本調査での略称)	調査名	実施機関
平成 10 年度調査 (H10)	子どもの体験活動等に関するアンケート調査 (文部省委嘱調査)	青少年教育活動研究会
平成 17 年度調査 (H17)	青少年の自然体験活動等に関する実態調査	国立オリンピック記念青少年総合センター
平成 18 年度調査 (H18)	青少年の体験活動等と自立に関する実態調査	国立青少年教育振興機構
平成 20 年度調査 (H20)		
平成 21 年度調査 (H21)		
平成 22 年度調査 (H22)		
平成 24 年度調査 (H24)	青少年の体験活動等に関する実態調査	